

特別支援学校卒業後の進路や学びに関する調査
(小中学部対象)

東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

目次

- I. 概 要..... 1
 - 1. 調査目的 2
 - 2. 調査概要 2
- II. 児童・生徒及びその保護者の調査結果 3
 - I お子さんについて 4
 - II 学校卒業後の進路 16
 - III 放課後や休日の学びの場・方法の理解..... 27
 - IV 在学中の学びの二一ズ 31
 - V 学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの二一ズ 40
- III. 資料..... 49

I. 概 要

1. 調査目的

都立特別支援学校小学部及び中学部に在籍する児童・生徒の保護者に対し、将来、卒業後の進路等に対する意向を調査し、多様な進路のあり方について検討するための材料とする。

2. 調査概要

■調査対象

都立特別支援学校小学部及び中学部に在籍する児童・生徒の保護者 10,000件程度

■調査期間（回答受付期間）

令和7年9月29日から令和7年10月17日まで

■調査方法

Web フォームによる回答とする。

■回収率

	配布数	有効回収数	有効回収率
生徒及びその保護者	10,000	3,590	35.9%

■報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、不明なものや無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

II. 児童・生徒及びその保護者の調査結果

I お子さんについて

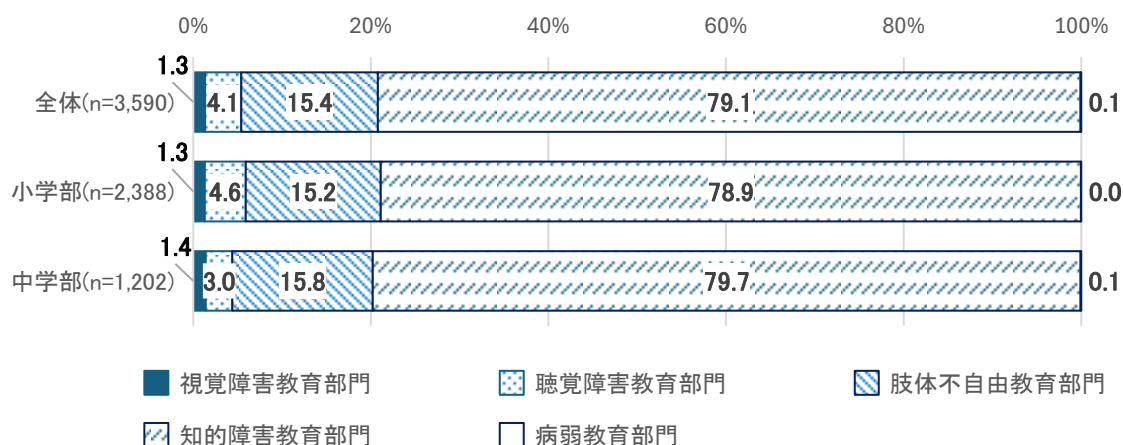
1-2 Q2 在籍している教育部門を御回答ください

お子さんの在籍している教育部門について全体では、「知的障害教育部門」が79.1%で最も高く、次いで「肢体不自由教育部門」が15.4%、「聴覚障害教育部門」が4.1%と続いています。

小学部では、「知的障害教育部門」が78.9%で最も高く、次いで「肢体不自由教育部門」が15.2%、「聴覚障害教育部門」が4.6%と続いています。

中学部では、「知的障害教育部門」が79.7%で最も高く、次いで「肢体不自由教育部門」が15.8%、「聴覚障害教育部門」が3.0%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
視覚障害教育部門	31	1.3	17	1.4	48	1.3
聴覚障害教育部門	110	4.6	36	3.0	146	4.1
肢体不自由教育部門	363	15.2	190	15.8	553	15.4
知的障害教育部門	1,883	78.9	958	79.7	2,841	79.1
病弱教育部門	1	0.0	1	0.1	2	0.1
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0

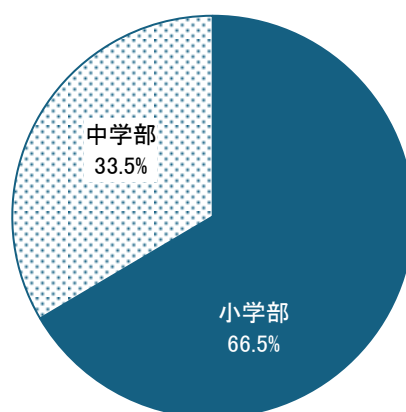


1-3 Q3 在籍している学部を御回答ください

お子さんの在籍している学部については、「小学部」が66.5%、「中学部」が33.5%でした。

カテゴリー	件数	割合(%)
小学部	2,388	66.5
中学部	1,202	33.5
全体	3,590	100.0

全体
(n=3,590)

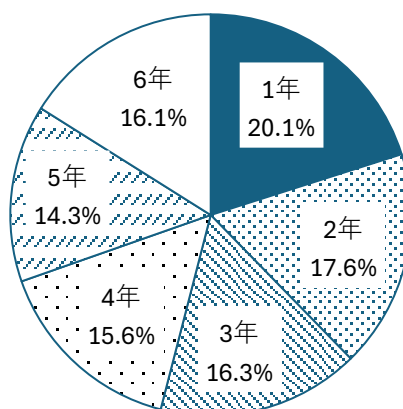


1-4 Q4 お子さんの現在の学年を御回答ください（小学部）

お子さんの現在の学年（小学部）については、「1年」が20.1%で最も高く、次いで「2年」が17.6%、「3年」が16.3%と続いています。

カテゴリー	件数	割合(%)
1 年	480	20.1
2 年	420	17.6
3 年	390	16.3
4 年	373	15.6
5 年	341	14.3
6 年	384	16.1
全体	2,388	100.0

(n=2,388)

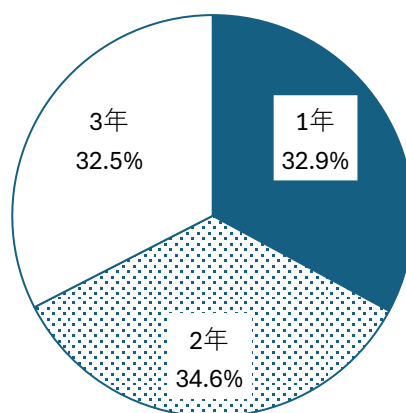


1-5 Q4 お子さんの現在の学年を御回答ください（中学部）

お子さんの現在の学年（中学部）については、「2年」が34.6%で最も高く、次いで「1年」が32.9%、「3年」が32.5%と続いています。

カテゴリー	件数	割合(%)
1 年	395	32.9
2 年	416	34.6
3 年	391	32.5
全体	1,202	100.0

(n=1,202)



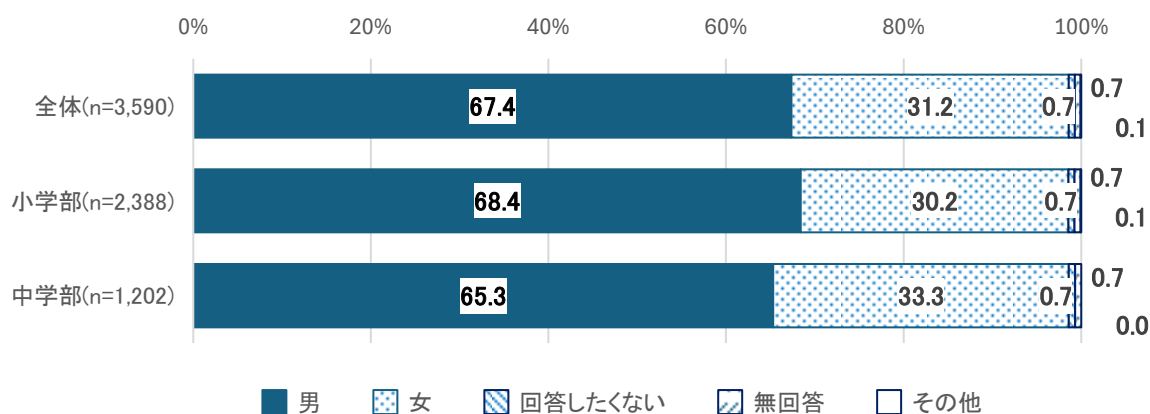
1-6 Q5 お子さんの性別を御回答ください

お子さんの性別について全体では、「男」が67.4%、「女」が31.2%でした。

小学部では、「男」が68.4%、「女」が30.2%でした。

中学部では、「男」が65.3%、「女」が33.3%でした。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
男	1,634	68.4	785	65.3	2,419	67.4
女	720	30.2	400	33.3	1,120	31.2
回答したくない	16	0.7	9	0.7	25	0.7
無回答	16	0.7	8	0.7	24	0.7
その他	2	0.1	0	0.0	2	0.1
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



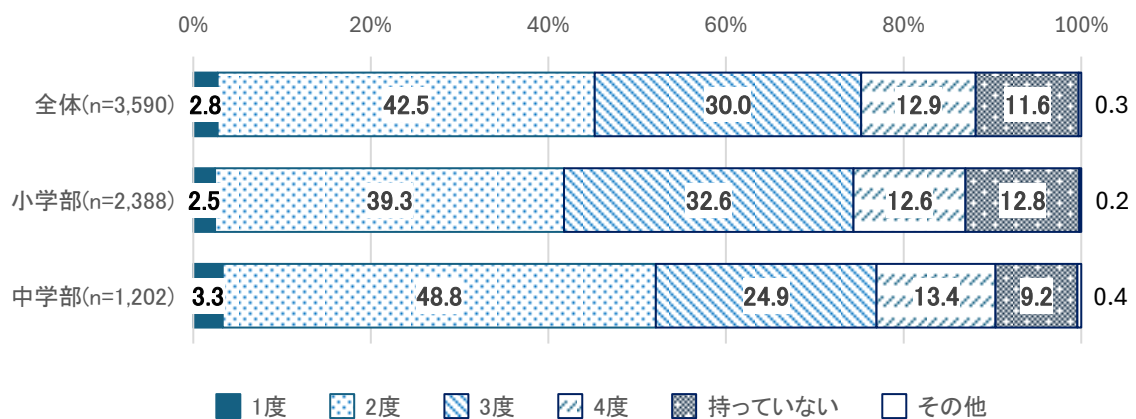
1-7 Q7 お子さんの愛の手帳の区分を御回答ください

お子さんの愛の手帳の区分について全体では、「2度」が42.5%で最も高く、次いで「3度」が30.0%、「4度」が12.9%と続いています。

小学部では、「2度」が39.3%で最も高く、次いで「3度」が32.6%、「持っていない」が12.8%と続いています。

中学部では、「2度」が48.8%で最も高く、次いで「3度」が24.9%、「4度」が13.4%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1度	59	2.5	40	3.3	99	2.8
2度	938	39.3	586	48.8	1,524	42.5
3度	779	32.6	299	24.9	1,078	30.0
4度	301	12.6	161	13.4	462	12.9
持っていない	306	12.8	111	9.2	417	11.6
その他	5	0.2	5	0.4	10	0.3
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

申請手続き中	4
判定・等級に関する具体的記述(B1や更新非該当、2度判定等)	3
判定結果待ち	1
区分が重複のため未申請	1
無回答	1

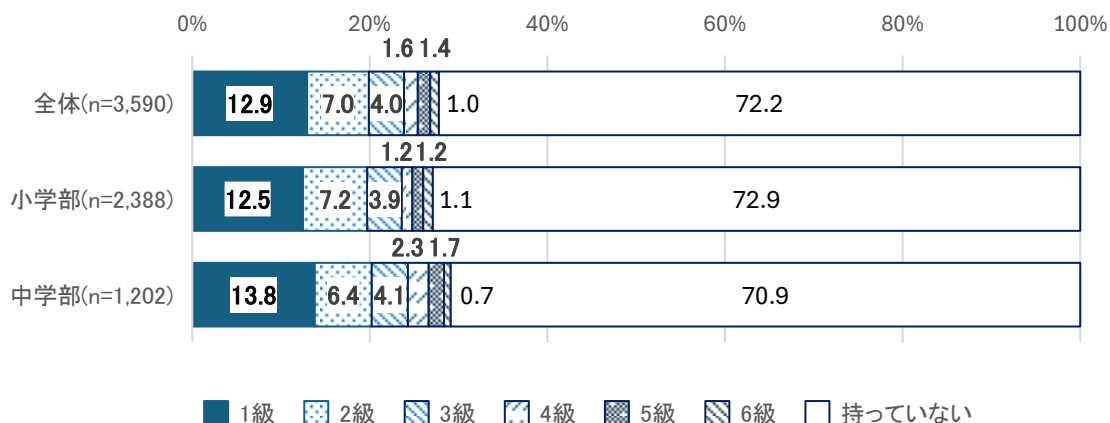
1-8 Q8 お子さんの身体障害者手帳の区分を御回答ください

お子さんの身体障害者手帳の区分について全体では、「持っていない」が72.2%で最も高く、次いで「1級」が12.9%、「2級」が7.0%と続いています。

小学部では、「持っていない」が72.9%で最も高く、次いで「1級」が12.5%、「2級」が7.2%と続いています。

中学部では、「持っていない」が70.9%で最も高く、次いで「1級」が13.8%、「2級」が6.4%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1 級	298	12.5	166	13.8	464	12.9
2 級	173	7.2	77	6.4	250	7.0
3 級	93	3.9	49	4.1	142	4.0
4 級	28	1.2	28	2.3	56	1.6
5 級	29	1.2	21	1.7	50	1.4
6 級	26	1.1	9	0.7	35	1.0
持っていない	1,741	72.9	852	70.9	2,593	72.2
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



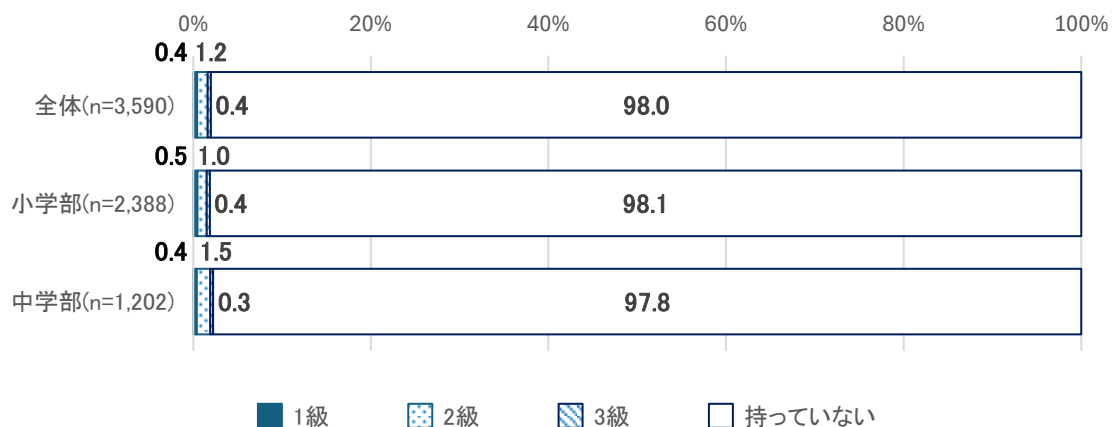
1-9 Q9 お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分を御回答ください

お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分について全体では、「持っていない」が98.0%で最も高く、次いで「2級」が1.2%、「1級」と「3級」が0.4%と続いています。

小学部では、「持っていない」が98.1%で最も高く、次いで「2級」が1.0%、「1級」が0.5%と続いています。

中学部では、「持っていない」が97.8%で最も高く、次いで「2級」が1.5%、「1級」が0.4%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1 級	11	0.5	5	0.4	16	0.4
2 級	25	1.0	18	1.5	43	1.2
3 級	9	0.4	4	0.3	13	0.4
持っていない	2,343	98.1	1,175	97.8	3,518	98.0
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



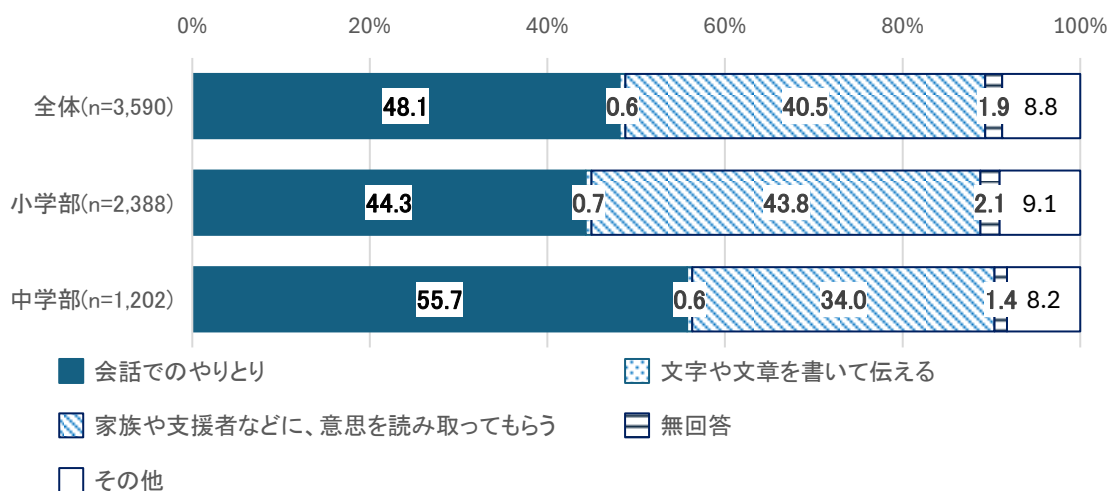
1-10 Q10 お子さんの主な意思の伝達方法を御回答ください

お子さんの主な意思の伝達方法について全体では、「会話でのやりとり」が48.1%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が40.5%、「その他」が8.8%と続いています。

小学部では、「会話でのやりとり」が44.3%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が43.8%、「その他」が9.1%と続いています。

中学部では、「会話でのやりとり」が55.7%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が34.0%、「その他」が8.2%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
会話でのやりとり	1,058	44.3	670	55.7	1,728	48.1
文字や文章を書いて伝える	16	0.7	7	0.6	23	0.6
家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう	1,046	43.8	409	34.0	1,455	40.5
無回答	51	2.1	17	1.4	68	1.9
その他	217	9.1	99	8.2	316	8.8
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

会話・単語・二語文など発語	130
ジェスチャー・サイン・身振り	103
手話	73
絵・写真・カード	49
周囲の読み取り(家族・支援者が汲み取る)	44
文字・筆談・文字盤・デバイス	28
表情・泣く・頷き・YES/NO 等の非言語	26
マカトン	20
指さし	19
意思疎通困難・不可	15
他者の手を引く等	14
口話・読話	11

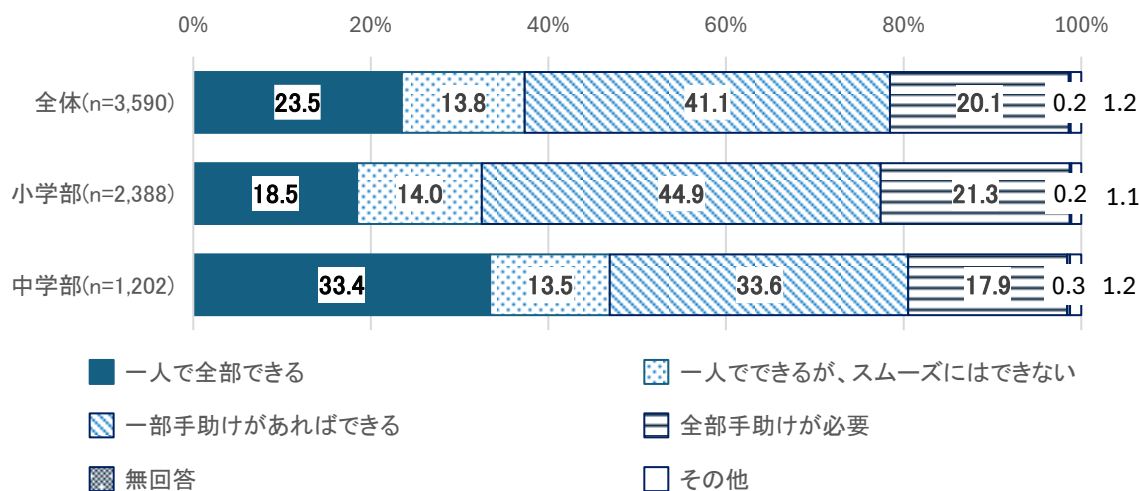
1-11 Q11 お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力を御回答ください

お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力について全体では、「一部手助けがあればできる」が41.1%で最も高く、次いで「一人で全部できる」が23.5%、「全部手助けが必要」が20.1%と続いています。

小学部では、「一部手助けがあればできる」が44.9%で最も高く、次いで「全部手助けが必要」が21.3%、「一人で全部できる」が18.5%と続いています。

中学部では、「一部手助けがあればできる」が33.6%で最も高く、次いで「一人で全部できる」が33.4%、「全部手助けが必要」が17.9%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	441	18.5	402	33.4	843	23.5
一人でできるが、スムーズにはできない	335	14.0	162	13.5	497	13.8
一部手助けがあればできる	1,073	44.9	404	33.6	1,477	41.1
全部手助けが必要	508	21.3	215	17.9	723	20.1
無回答	4	0.2	4	0.3	8	0.2
その他	27	1.1	15	1.2	42	1.2
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

着替え・食事は自立、排せつのみ介助(オムツ・拭き取り含む)	15
食事・着替えは一部介助、排せつは全介助	9
ほぼ自立(見守り・声かけ・一部補助が必要)	8
部分的に自立と介助が混在(動作によって差あり)	4
排せつはオムツ使用・練習中	3
細部や外出時など限定的な手助け・誘導が必要	2
食事は経管栄養で介助	1

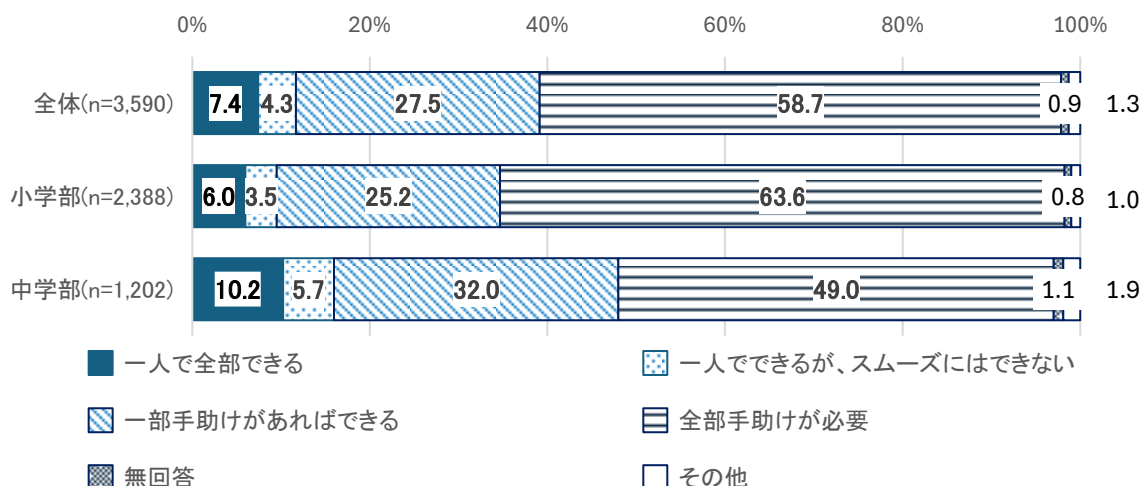
1-12 Q12 お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力を御回答ください

お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力について全体では、「全部手助けが必要」が58.7%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が27.5%、「一人で全部できる」が7.4%と続いています。

小学部では、「全部手助けが必要」が63.6%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が25.2%、「一人で全部できる」が6.0%と続いています。

中学部では、「全部手助けが必要」が49.0%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が32.0%、「一人で全部できる」が10.2%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	143	6.0	123	10.2	266	7.4
一人でできるが、スムーズにはできない	84	3.5	69	5.7	153	4.3
一部手助けがあればできる	601	25.2	385	32.0	986	27.5
全部手助けが必要	1,518	63.6	589	49.0	2,107	58.7
無回答	18	0.8	13	1.1	31	0.9
その他	24	1.0	23	1.9	47	1.3
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

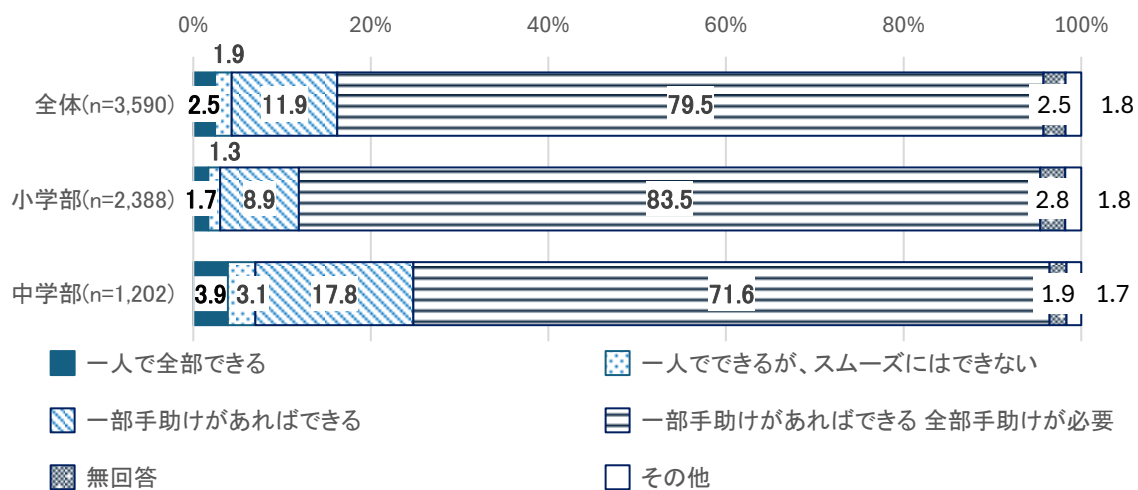
まだ一人で利用したことがない・未経験	18
付き添いや見守りが必要(危険・衝動・安全確保のため)	10
精神・身体的理由により利用困難(精神疾患・弱視・感染リスク等)	5
能力はあるが安全配慮や指示が必要	4
学校など限られた範囲では可能(登下校のみなど)	2
練習次第で可能・段階的に習得中	2
完全に一人で利用可能	1

お子さんの買物や銀行での預金の出し入れなどの金銭の管理能力について全体では、「全部手助けが必要」が79.5%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が11.9%、「一人で全部できる」が2.5%と続いています。

小学部では、「全部手助けが必要」が83.5%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が8.9%と続いています。

中学部では、「全部手助けが必要」が71.6%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が17.8%、「一人で全部できる」が3.9%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	41	1.7	47	3.9	88	2.5
一人でできるが、スムーズにはできない	31	1.3	37	3.1	68	1.9
一部手助けがあればできる	212	8.9	214	17.8	426	11.9
全部手助けが必要	1,994	83.5	861	71.6	2,855	79.5
無回答	67	2.8	23	1.9	90	2.5
その他	43	1.8	20	1.7	63	1.8
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■その他の内訳

まだ金銭管理をさせていない・未経験(お小遣い未実施・試したことがない等)	27
金銭理解・管理能力がない(理解不足・数字理解困難含む)	13
全くできない・全面的に大人が管理	6
買い物は一部可能だが金銭管理は不可(要声かけ・見守り)	6
支払いなど部分的に可能(代金支払い・お釣り受取等)	3
身体的・発達の理由でサポートが必要(肢体不自由など)	1
管理は未実施だが限定的な範囲で選択・購入経験あり	1

Ⅱ 学校卒業後の進路

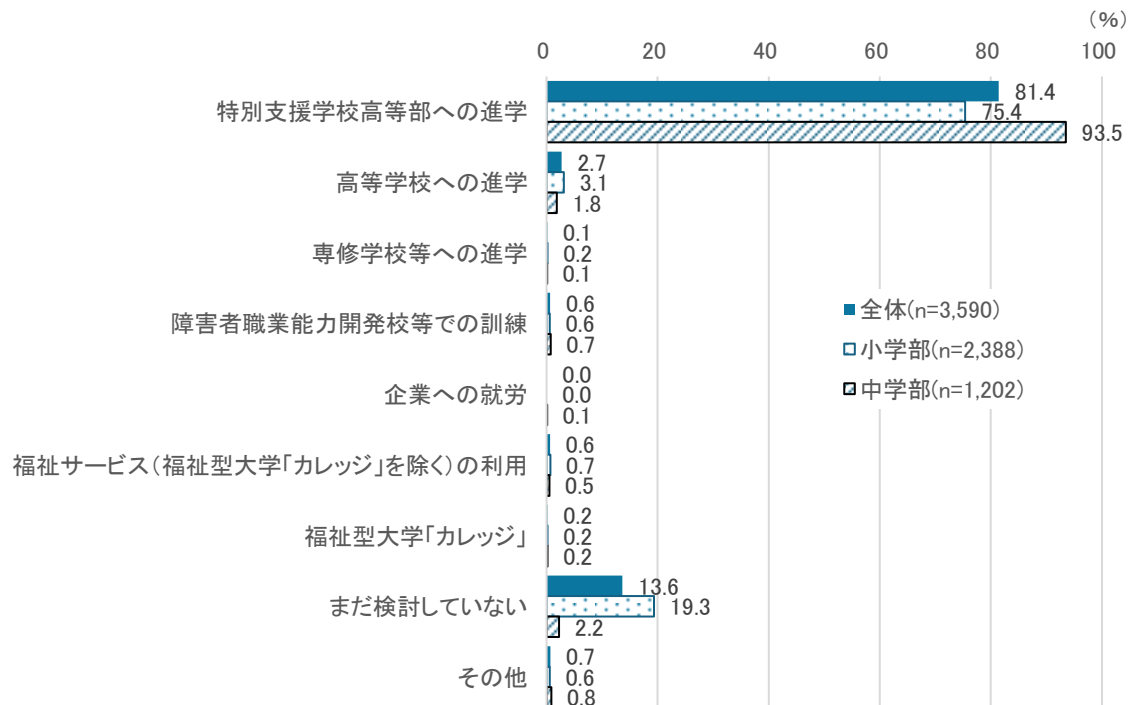
2-1 Q14 お子さんの中学部卒業後に希望する進路先を御回答ください

学校を卒業後に希望する進路について全体では、「特別支援学校高等部への進学」が81.4%で最も高く、次いで「まだ検討していない」が13.6%、「高等学校への進学」が2.7%と続いています。

小学部では、「特別支援学校高等部への進学」が75.4%で最も高く、次いで「まだ検討していない」が19.3%、「高等学校への進学」が3.1%と続いています。

中学部では、「特別支援学校高等部への進学」が93.5%で最も高く、次いで「まだ検討していない」が2.2%、「高等学校への進学」が1.8%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
特別支援学校高等部への進学	1,800	75.4	1,124	93.5	2,924	81.4
高等学校への進学	74	3.1	22	1.8	96	2.7
専修学校等への進学	4	0.2	1	0.1	5	0.1
障害者職業能力開発校等での訓練	14	0.6	9	0.7	23	0.6
企業への就労	0	0.0	1	0.1	1	0.0
福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用	16	0.7	6	0.5	22	0.6
福祉型大学「カレッジ」	4	0.2	2	0.2	6	0.2
まだ検討していない	462	19.3	27	2.2	489	13.6
その他	14	0.6	10	0.8	24	0.7
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

まだ進路を決めていない・情報収集中・未検討	8
特別支援学校高等部への進学予定(含む就業技術科・職能開発科)	7
福祉施設・入所を予定または希望(含む長期入所)	3
将来的に本人の適性・発達を見て検討予定	3
通信制高校・普通高校などを検討	2
A 型・B 型就労支援事業所を希望	1
外出困難・在宅を予定	1
特に予定なし・不明	1

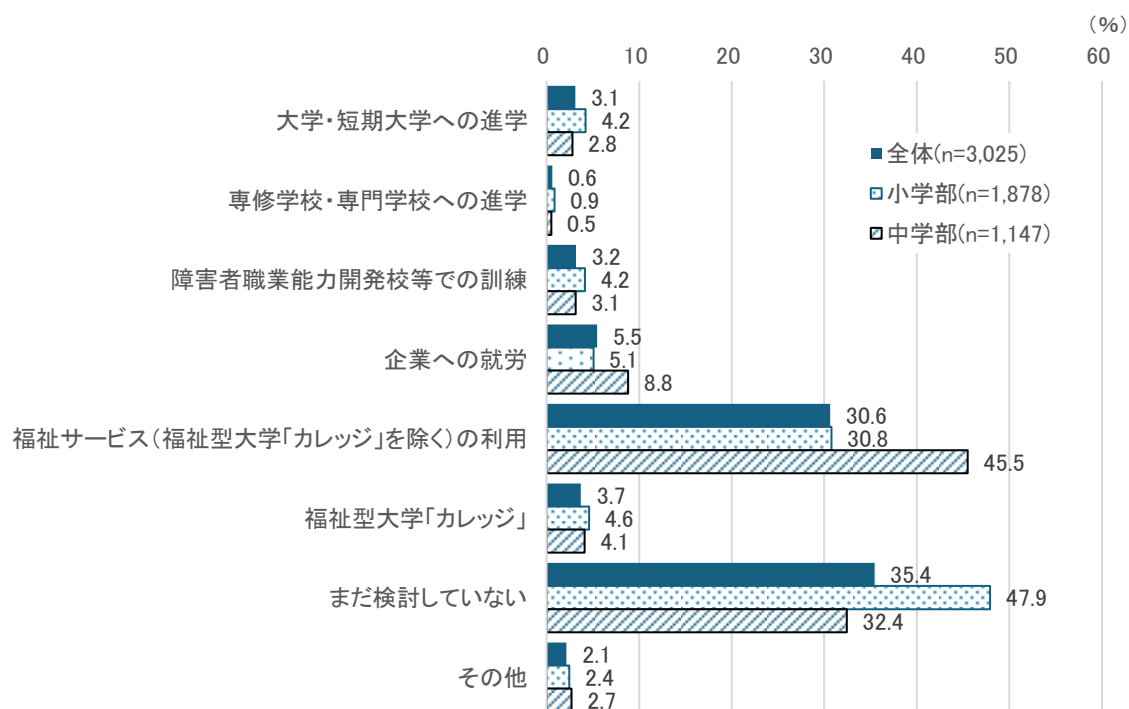
(Q14で「特別支援学校高等部への進学」「高等学校への進学」「専修学校等への進学」を回答した場合)
Q15 お子さんの高等学校段階卒業後に希望する進路を御回答ください

全体では、「まだ検討していない」が42.0%で最も高く、次いで「福祉サービス（福祉型大学「カレッジ」を除く）の利用」が36.4%、「企業への就労」が6.5%と続いています。

小学部では、「まだ検討していない」が47.9%で最も高く、次いで「福祉サービス（福祉型大学「カレッジ」を除く）の利用」が30.8%、「企業への就労」が5.1%と続いています。

中学部では、「福祉サービス（福祉型大学「カレッジ」を除く）の利用」が45.5%で最も高く、次いで「まだ検討していない」が32.4%、「企業への就労」が8.8%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
大学・短期大学への進学	79	4.2	32	2.8	111	3.7
専修学校・専門学校への進学	16	0.9	6	0.5	22	0.7
障害者職業能力開発校等での訓練	78	4.2	36	3.1	114	3.8
企業への就労	95	5.1	101	8.8	196	6.5
福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用	578	30.8	522	45.5	1,100	36.4
福祉型大学「カレッジ」	86	4.6	47	4.1	133	4.4
まだ検討していない	900	47.9	372	32.4	1,272	42.0
その他	46	2.4	31	2.7	77	2.5
全体	1,878	100.0	1,147	100.0	3,025	100.0



■ その他の内訳

生活介護(生活介護事業所含む)	18
検討中・わからない・悩んでいる	18
入所施設・福祉園・成人施設(含む医療的ケア対応)	13
作業所・就労支援 AB 型・就労	12
在宅	5
グループホーム	3
福祉型大学、支援学校の大学など新しい選択肢への関心	2
行きたい所がない・情報がない	2
進学希望(どこかへ進学など)	2
その他(自分がやりたい事など)	2

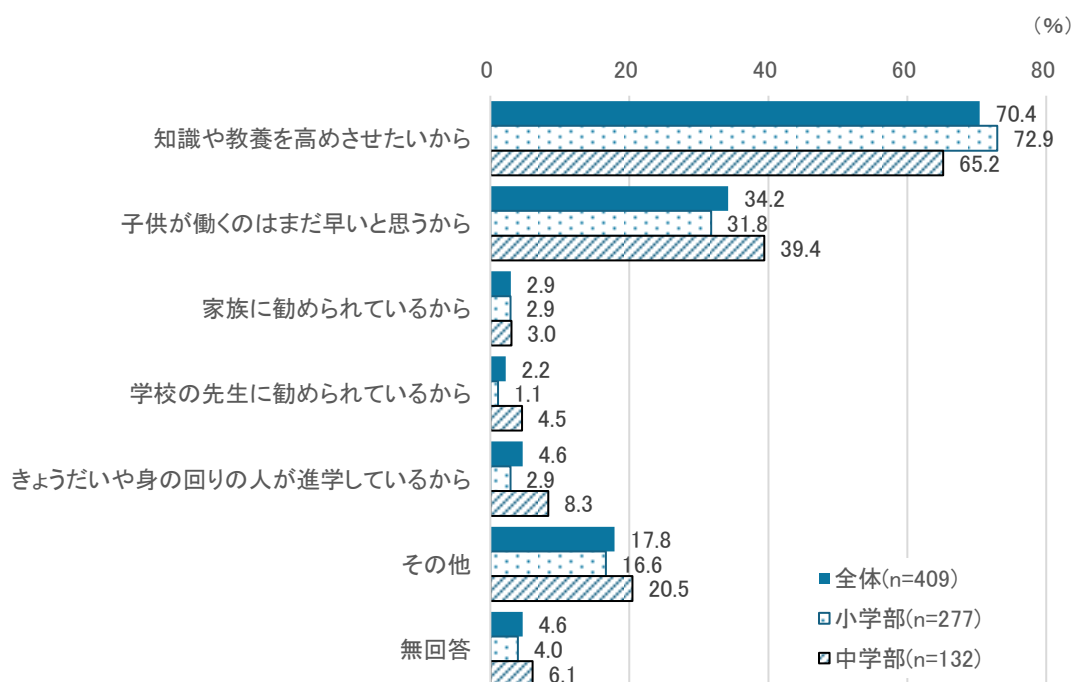
(Q14で「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」、またはQ15で「大学・短期大学への進学」「専修学校・専門学校への進学」「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」を回答した場合)
Q16 その理由を御回答ください(複数回答)

Q14で「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」、またはQ15で「大学・短期大学への進学」「専修学校・専門学校への進学」「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」を選んだ理由について全体では、「知識や教養を高めさせたいから」が70.4%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が34.2%、「その他」が17.8%と続いています。

小学部では、「知識や教養を高めさせたいから」が72.9%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が31.8%、「その他」が16.6%と続いています。

中学部では、「知識や教養を高めさせたいから」が65.2%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が39.4%、「その他」が20.5%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
知識や教養を高めさせたいから	202	72.9	86	65.2	288	70.4
子供が働くのはまだ早いと思うから	88	31.8	52	39.4	140	34.2
家族に勧められているから	8	2.9	4	3.0	12	2.9
学校の先生に勧められているから	3	1.1	6	4.5	9	2.2
きょうだいや身の回りの人が進学しているから	8	2.9	11	8.3	19	4.6
その他	46	16.6	27	20.5	73	17.8
無回答	11	4.0	8	6.1	19	4.6
全体	277	100.0	132	100.0	409	100.0



■ その他の内訳

本人の希望・意思によるもの	9
将来の可能性を広げたい・選択肢を増やしたい	8
就労・自立に向けた準備や訓練のため	8
社会経験・青春や学びの時間を持たせたい	7
就職前に成長・経験を積ませたい(インターバル的期間)	6
自立・生活スキル向上を目指すため	5
働く力・技術を身につけさせたい(専攻科・職能訓練含む)	4
社会参加・適応力向上を目指すため	3
安心・安全な環境で過ごしてほしい	2
進学・学び継続への意欲(大学・福祉カレッジ等)	2
環境変化やストレスを避けたい(精神的配慮)	2
その他(支援者の勧めなど)	2

(Q14 若しくはQ15で「企業への就労」「福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用」を回答した場合)

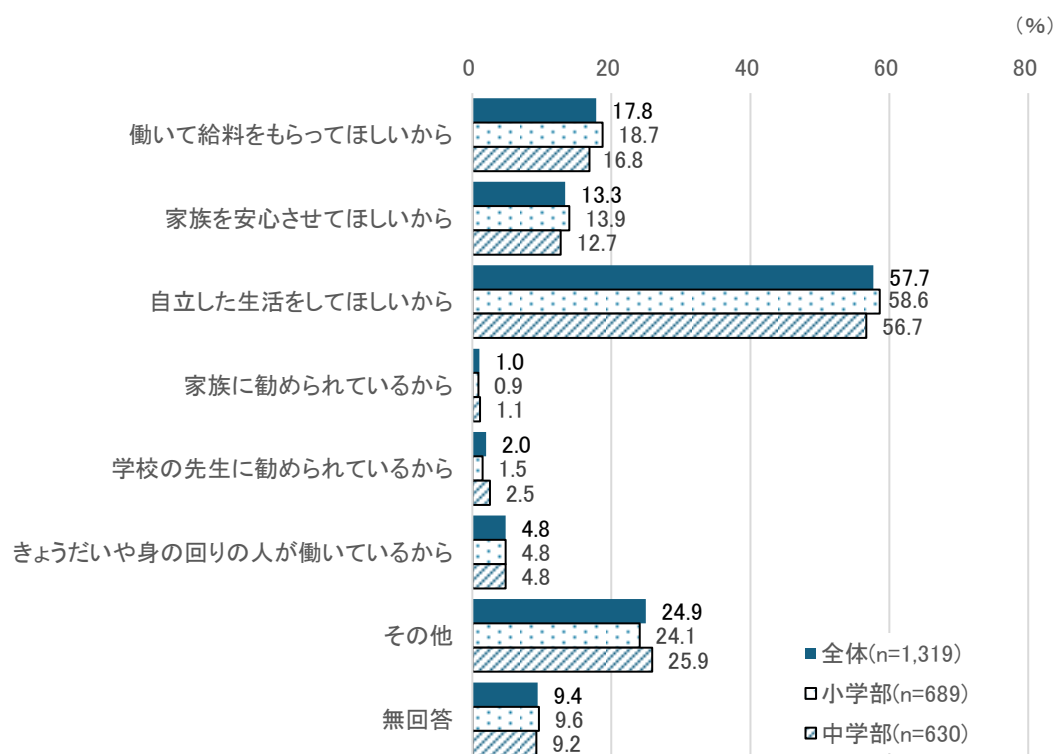
Q17 その理由を御回答ください(複数回答)

Q14若しくはQ15で「企業への就労」「福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用」を選んだ理由について全体では、「自立した生活をしてほしいから」が57.7%で最も高く、次いで「その他」が24.9%、「働いて給料をもらってほしいから」が17.8%と続いています。

小学部では、「自立した生活をしてほしいから」が58.6%で最も高く、次いで「その他」が24.1%、「働いて給料をもらってほしいから」が18.7%と続いています。

中学部では、「自立した生活をしてほしいから」が56.7%で最も高く、次いで「その他」が25.9%、「働いて給料をもらってほしいから」が16.8%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
働いて給料をもらってほしいから	129	18.7	106	16.8	235	17.8
家族を安心させてほしいから	96	13.9	80	12.7	176	13.3
自立した生活をしてほしいから	404	58.6	357	56.7	761	57.7
家族に勧められているから	6	0.9	7	1.1	13	1.0
学校の先生に勧められているから	10	1.5	16	2.5	26	2.0
きょうだいや身の回りの人が働いているから	33	4.8	30	4.8	63	4.8
その他	166	24.1	163	25.9	329	24.9
無回答	66	9.6	58	9.2	124	9.4
全体	689	100.0	630	100.0	1,319	100.0



■ その他の内訳

他に選択肢がない・限られている(生活介護が唯一の現実的進路)	86
本人の障害特性・知的レベル等から就労や自立が困難	28
本人に合った・安心できる環境で過ごしてほしい	18
社会とのつながり・居場所を持ってほしい(日中活動含む)	17
生活介護・福祉サービスが妥当・必要(全介助・支援目的)	15
自立・生活リズム維持・親亡き後を見据えて	13
楽しく・やりがいのある生活を送ってほしい	12
働く・社会参加を通じて成長・貢献してほしい	10
家庭介護が難しい・親の負担軽減のため	7
本人の希望・意欲・意思を尊重	6
現状では進学・就職が難しい・情報不足	5
社会経験・人との関わりを持ってほしい	4
福祉制度・受け皿がそれしかない(構造的理由)	4
規則正しい生活・日中活動の継続を希望	3
その他(主治医・学校の勧め、周囲の影響など)	2

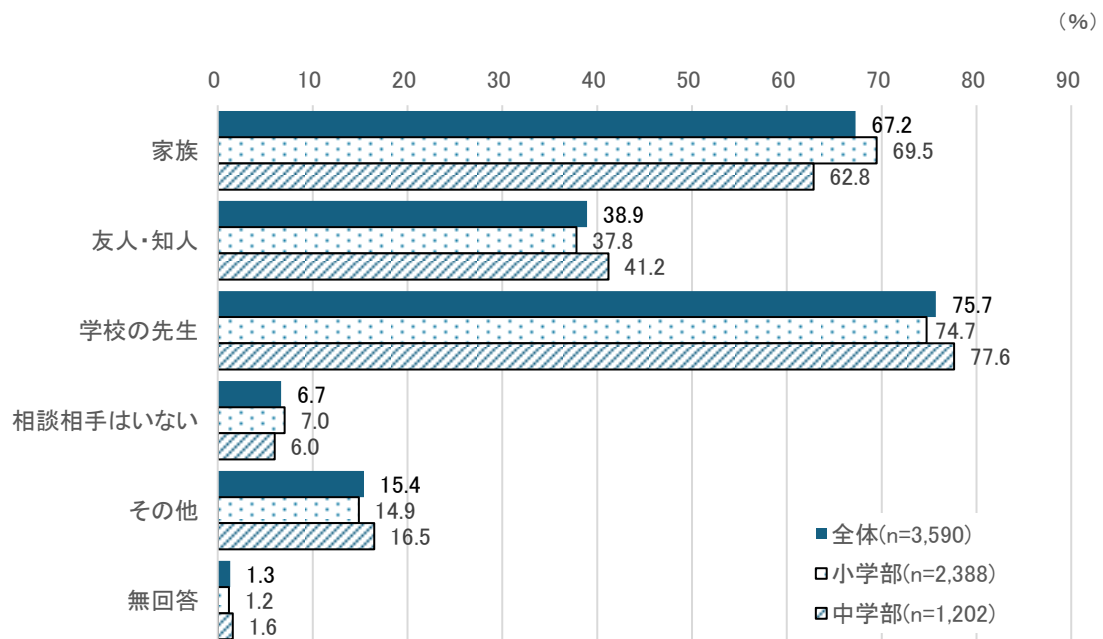
2-5 Q18 進路について相談できる人を御回答ください（複数回答）

進路について相談できる人について全体では、「学校の先生」が75.7%で最も高く、次いで「家族」が67.2%、「友人・知人」が38.9%と続いています。

小学部では、「学校の先生」が74.7%で最も高く、次いで「家族」が69.5%、「友人・知人」が37.8%と続いています。

中学部では、「学校の先生」が77.6%で最も高く、次いで「家族」が62.8%、「友人・知人」が41.2%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
家族	1,659	69.5	755	62.8	2,414	67.2
友人・知人	903	37.8	495	41.2	1,398	38.9
学校の先生	1,785	74.7	933	77.6	2,718	75.7
相談相手はいない	168	7.0	72	6.0	240	6.7
その他	355	14.9	198	16.5	553	15.4
無回答	28	1.2	19	1.6	47	1.3
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

相談支援員(計画相談支援含む)	122
放課後等デイサービス職員・スタッフ・先生	89
医師・主治医(発達外来・療育医含む)	24
デイサービス職員・療育機関スタッフ	22
福祉施設・事業所職員(福祉園・支援センター等)	15
区市町村・行政(福祉課・児童相談所・ケースワーカー等)	13
心理士・ST・OT・リハビリ担当者等の専門職	10
親の会・先輩保護者・ママ友	9
訪問看護師・ヘルパー・ケアマネジャー	8
学校・塾・教育関係者(担任・特別支援相談員等)	6
誰にも相談していない・相談先が分からない	5
ネット・SNS・生成AIなど情報収集ツール	4
職場関係者(上司・同僚など)	3
自分自身で調べる・判断している	2

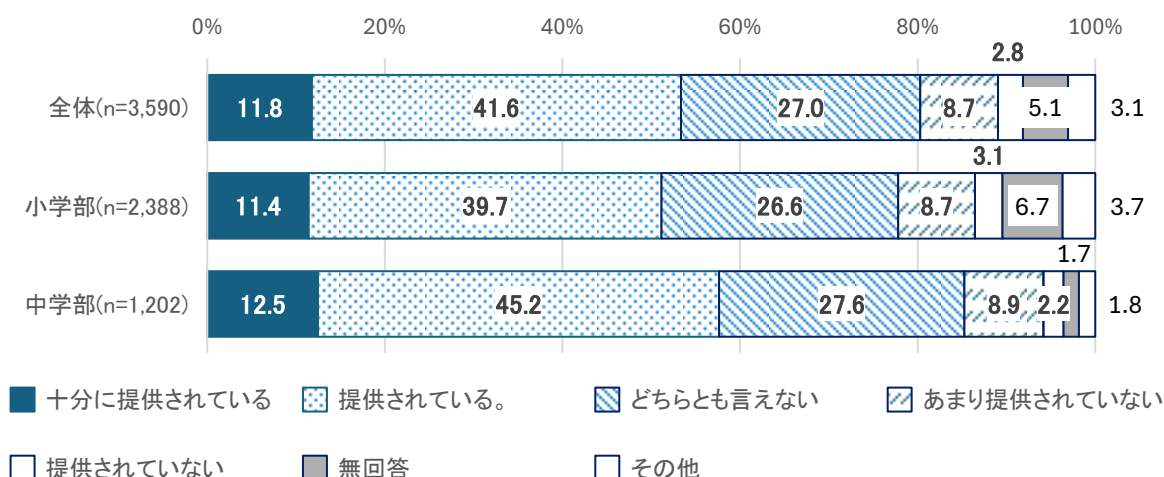
2-6 Q19 進路に関する情報は、学校から十分に提供されていますか

進路に関する情報は、学校から十分に提供されているかについて全体では、「十分に提供されている」が11.8%、「提供されている」が41.6%と、53.4%が『提供されている』と回答しました。

小学部では、「十分に提供されている」が11.4%、「提供されている」が39.7%と、51.1%が『提供されている』と回答しました。

中学部では、「十分に提供されている」が12.5%、「提供されている」が45.2%と、57.7%が『提供されている』と回答しました。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分に提供されている	273	11.4	150	12.5	423	11.8
提供されている	949	39.7	543	45.2	1,492	41.6
どちらとも言えない	636	26.6	332	27.6	968	27.0
あまり提供されていない	207	8.7	107	8.9	314	8.7
提供されていない	74	3.1	27	2.2	101	2.8
無回答	161	6.7	21	1.7	182	5.1
その他	88	3.7	22	1.8	110	3.1
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■その他の内訳

まだ小学校低学年・時期ではないため情報提供なし(または不明)	52
入学したばかり・情報を把握していない・理解が追いついていない	18
提供はあるが内容が限定的・十分でない(重度児向け情報不足含む)	10
PTA・教育委員会などからの案内やプリント等による限定的情報提供	7
説明会・見学会など一部機会はあるが参加できていない・認識していない	6
自ら情報を取りに行かないと得られない・丸投げ状態	5
提供はされているが自分の子の状況に合っていない(マイノリティ等)	4
進路情報の重要性は理解しているが、まだ具体的に動いていない	4
早期からの情報提供・具体的アドバイスを希望	3
進路情報の質や多様性(福祉型カレッジ等)に不満・不足を感じる	3

Ⅲ 放課後や休日の学びの場・方法の理解

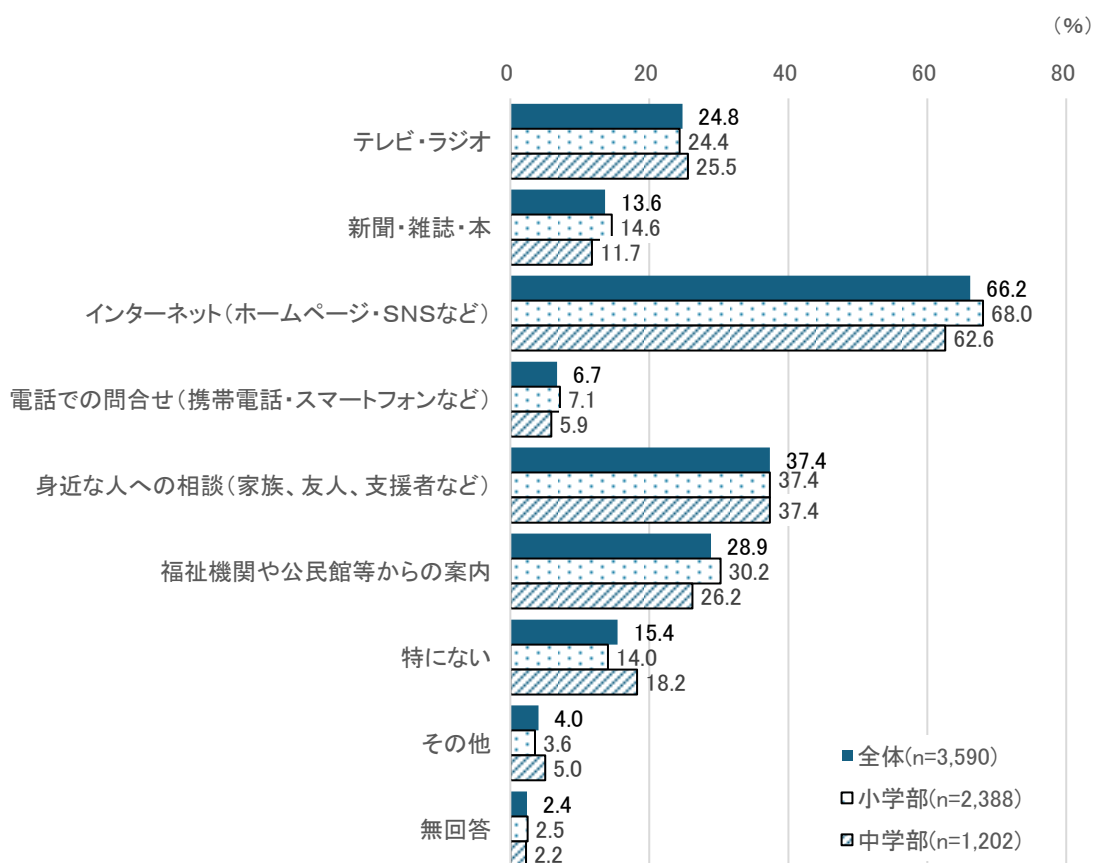
3-1 Q20 放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法を御回答ください（複数回答）

放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法について全体では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が66.2%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が37.4%、「福祉機関や公民館等からの案内」が28.9%と続いています。

小学部では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が68.0%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が37.4%、「福祉機関や公民館等からの案内」が30.2%と続いています。

中学部では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が62.6%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が37.4%、「福祉機関や公民館等からの案内」が26.2%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
テレビ・ラジオ	582	24.4	307	25.5	889	24.8
新聞・雑誌・本	348	14.6	141	11.7	489	13.6
インターネット(ホームページ・SNSなど)	1,624	68.0	752	62.6	2,376	66.2
電話での問合せ(携帯電話・スマートフォンなど)	170	7.1	71	5.9	241	6.7
身近な人への相談(家族、友人、支援者など)	892	37.4	449	37.4	1,341	37.4
福祉機関や公民館等からの案内	722	30.2	315	26.2	1,037	28.9
特になし	335	14.0	219	18.2	554	15.4
その他	85	3.6	60	5.0	145	4.0
無回答	59	2.5	27	2.2	86	2.4
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

学校・先生・PTA・配布物経由	33
放課後等デイサービス・療育関係	29
口コミ・親・家族・友人経由	12
民間の塾・通信教育・習い事など	10
本人には難しい／親が探す／不明	10
自治体や広報など公的情報	9
ネット・YouTube・アプリ等	9
医療機関・支援機関経由	7
図書館・博物館などの公共施設	5

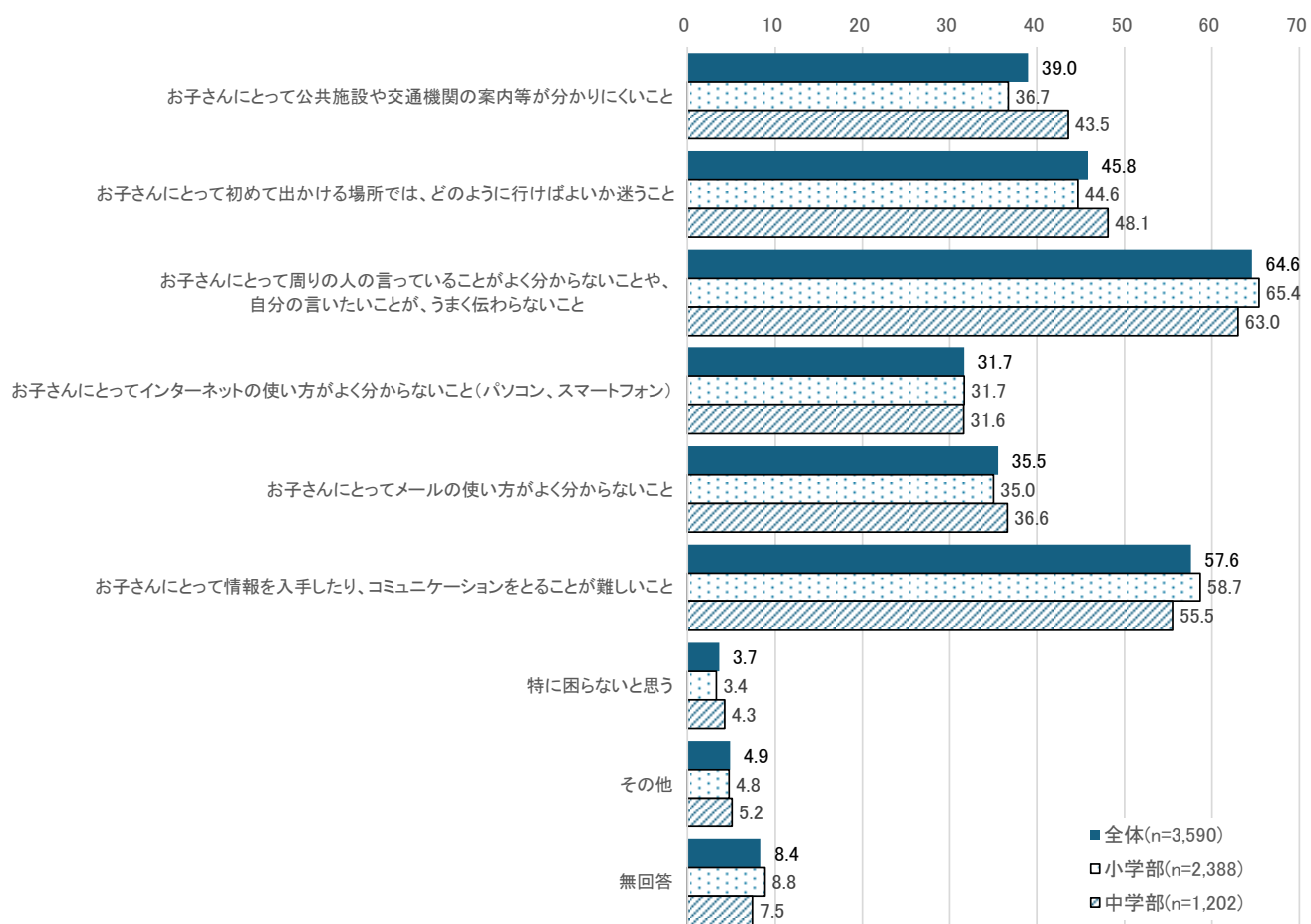
放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手や、活動団体とコミュニケーションをとる上で困りそうなことについて全体では、「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が64.6%で最も高く、次いで「お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと」が57.6%、「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が45.8%と続いています。

小学部では、「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が65.4%で最も高く、次いで「お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと」が58.7%、「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が44.6%と続いています。

中学部では、「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が63.0%で最も高く、次いで「お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと」が55.5%、「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が48.1%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
お子さんにとって公共施設や交通機関の案内等が分かりにくいこと	877	36.7	523	43.5	1,400	39.0
お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと	1,066	44.6	578	48.1	1,644	45.8
お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと	1,561	65.4	757	63.0	2,318	64.6
お子さんにとってインターネットの使い方がよく分からないこと（パソコン、スマートフォン）	757	31.7	380	31.6	1,137	31.7
お子さんにとってメールの使い方がよく分からないこと	836	35.0	440	36.6	1,276	35.5
お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと	1,401	58.7	667	55.5	2,068	57.6
特に困らないと思う	80	3.4	52	4.3	132	3.7
その他	115	4.8	62	5.2	177	4.9
無回答	211	8.8	90	7.5	301	8.4
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0

(%)



■ その他の内訳

知的障害が重く理解・判断・言語理解が困難(全般的にできない・理解できない)	47
全介助・常時支援が必要(1人で行動・活動・外出ができない)	33
保護者・介助者がすべて代行しており本人は主体的に行動できない	26
質問の意図・内容が理解できない・回答困難	17
まだ年齢が低く(小学生など)、そもそも対象段階ではない	14
移動・トイレ・バリアフリーなど身体的介助・設備面の問題(車椅子・医療的ケア含む)	12
情報入手・コミュニケーションが難しい(メール・音声情報・視覚聴覚障害含む)	11
新しい場所や人への不安・拒否反応・ストレス	9
社会的支援体制・受け入れ先が少ない(重度児の居場所・活動機会不足)	7
親の負担が大きく、余力がない・支援人手が不足	6
手話・字幕など情報保障の不足(聴覚障害関連)	4
感染・安全・社会的理解など環境面の懸念	3
地域・行政からの情報不足・イベント参加のハードルが高い	3
知的・身体障害が重複し、どの支援・情報も自分の子に当てはまらない	2

IV 在学中の学びのニーズ

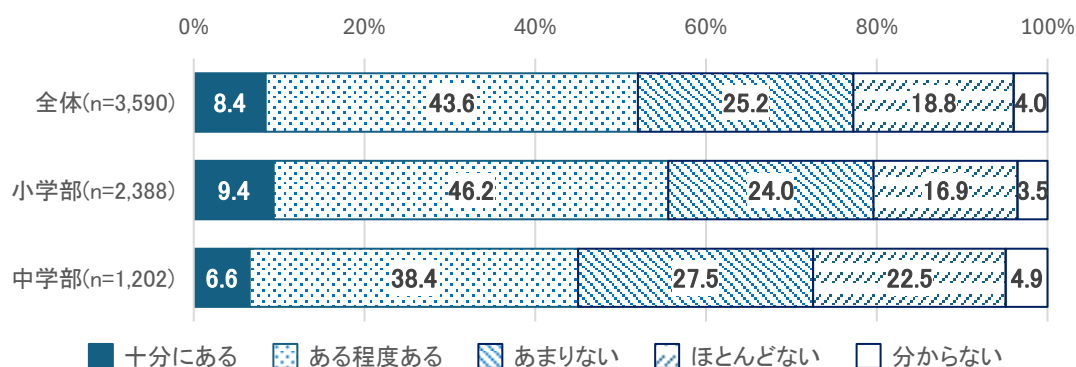
4-1 Q22 お子さんの現在の学校以外の学びの機会を御回答ください

お子さんの現在の学校以外の学びの機会について全体では、「十分にある」が8.4%、「ある程度ある」が43.6%と、52.0%が『ある』と回答しました。

小学部では、「十分にある」が9.4%、「ある程度ある」が46.2%と、55.6%が『ある』と回答しました。

中学部では、「十分にある」が6.6%、「ある程度ある」が38.4%と、45.0%が『ある』と回答しました。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分にある	224	9.4	79	6.6	303	8.4
ある程度ある	1,103	46.2	462	38.4	1,565	43.6
あまりない	574	24.0	331	27.5	905	25.2
ほとんどない	403	16.9	271	22.5	674	18.8
分からない	84	3.5	59	4.9	143	4.0
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0

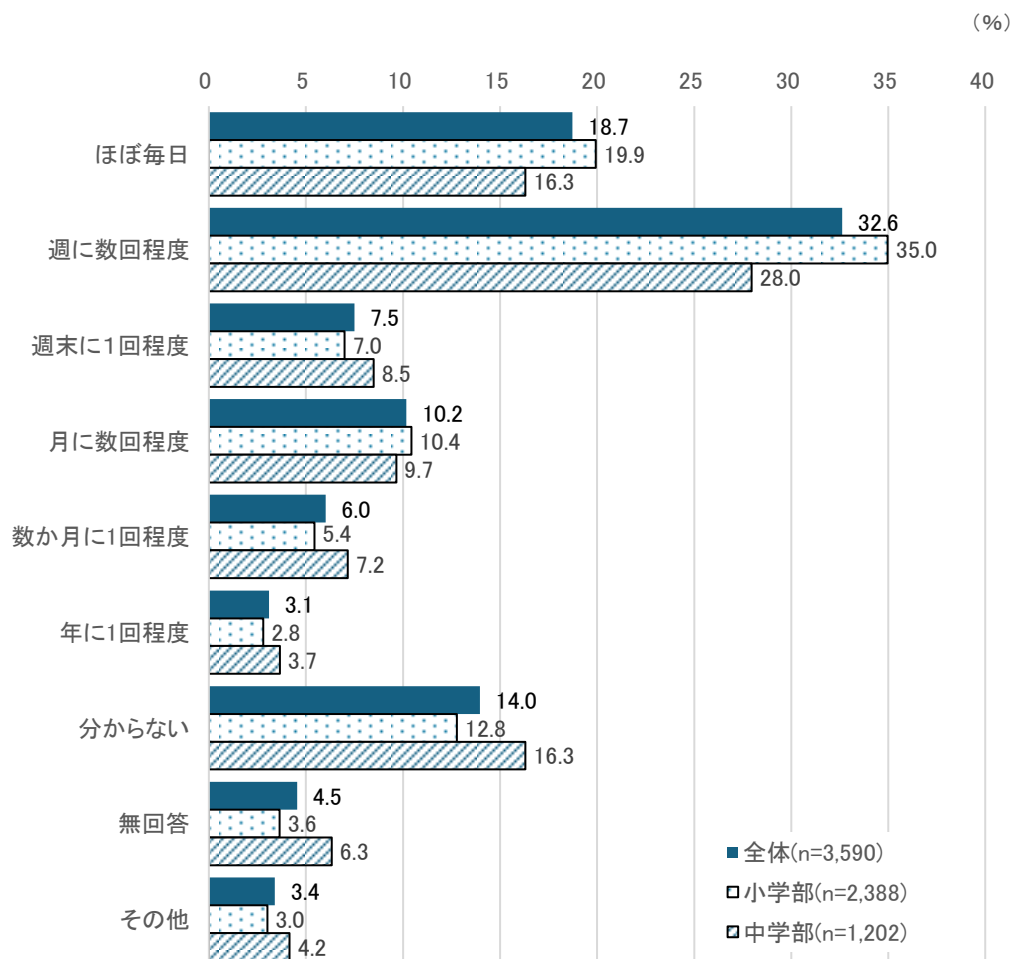


お子さんの現在の学校以外の学びの機会の頻度について全体では、「週に数回程度」が32.6%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」が18.7%、「分からない」が14.0%と続いています。

小学部では、「週に数回程度」が35.0%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」が19.9%、「分からない」が12.8%と続いています。

中学部では、「週に数回程度」が28.0%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」と「分からない」が16.3%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ほぼ毎日	476	19.9	196	16.3	672	18.7
週に数回程度	835	35.0	336	28.0	1,171	32.6
週末に1回程度	167	7.0	102	8.5	269	7.5
月に数回程度	249	10.4	116	9.7	365	10.2
数か月に1回程度	130	5.4	86	7.2	216	6.0
年に1回程度	67	2.8	44	3.7	111	3.1
分からない	305	12.8	196	16.3	501	14.0
無回答	87	3.6	76	6.3	163	4.5
その他	72	3.0	50	4.2	122	3.4
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

放課後等デイサービスを「学び」として利用(週 1～5 回)	61
学びの機会が全くない	38
放課後等デイサービスに通っているが「学び」と言えるか疑問・不明	13
週1回2回程度の軽頻度利用(療育・音楽療法など含む)	12
ほぼない・機会が非常に少ない(月 1 回など)	8
学びの定義が曖昧・理解できない(生活訓練／勉強どちらか不明)	6
重度障害・知的障害のため学びが困難	5
抽選制・施設の空きがない・利用困難	3
家庭内や母親との自主的活動(読書・タブレット端末など)	3
体験・外出など生活習慣面での学びが中心(ルール・順番など)	3

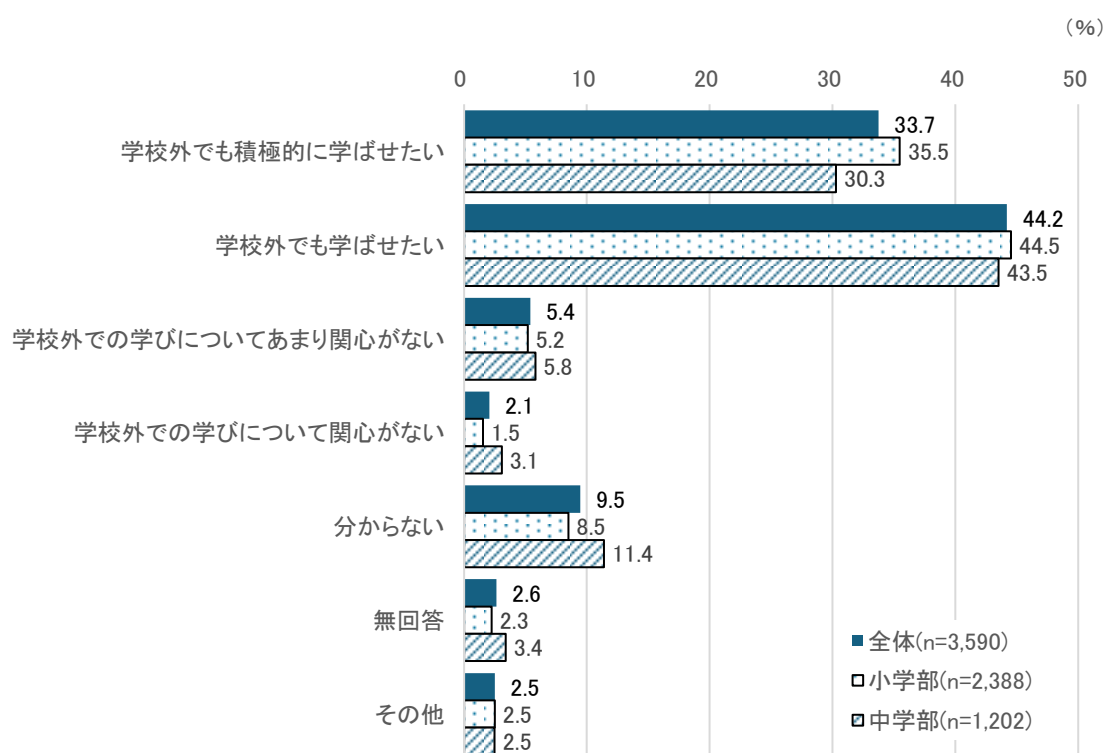
4-3 Q24 お子さんの学校以外の学びに関する要望を御回答ください

お子さんの学校以外の学びに関する要望について全体では、「学校外でも学ばせたい」が44.2%で最も高く、次いで「学校外でも積極的に学ばせたい」が33.7%、「分からない」が9.5%と続いています。

小学部では、「学校外でも学ばせたい」が44.5%で最も高く、次いで「学校外でも積極的に学ばせたい」が35.5%、「分からない」が8.5%と続いています。

中学部では、「学校外でも学ばせたい」が43.5%で最も高く、次いで「学校外でも積極的に学ばせたい」が30.3%、「分からない」が11.4%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校外でも積極的に学ばせたい	847	35.5	364	30.3	1,211	33.7
学校外でも学ばせたい	1,063	44.5	523	43.5	1,586	44.2
学校外での学びについてあまり関心がない	124	5.2	70	5.8	194	5.4
学校外での学びについて関心がない	37	1.5	37	3.1	74	2.1
分からない	203	8.5	137	11.4	340	9.5
無回答	54	2.3	41	3.4	95	2.6
その他	60	2.5	30	2.5	90	2.5
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

学校・放課後で十分／学校での学びで疲れており無理させたくない	22
学校外では「学び」よりも余暇・体験・運動など楽しく過ごす場を求めている	18
重度・知的障害などで学びそのものが難しい／段階にない	13
興味や意欲が本人にない・不明のため無理に学ばせていない	9
本人の負担にならない範囲でなら学ばせたい(体力・ストレス配慮)	9
受け入れ先が少なく、障害児を受け入れる学びの場がない	8
送迎・付き添い・保護者の都合で通わせるのが困難	7
本人の興味・特性に応じて学ばせたい(自由選択・個別対応希望)	6
放課後等デイサービスに通っている(が内容・回数に限界)	5
学校外でも社会参加・他者との関わりを学ばせたい(地域交流含む)	4
障害の程度に合ったプログラム・情報提供が少ない／不足している	4
休息・リラックスを優先したい(心身の回復重視)	3
言語聴覚士・理学療法士など療育的学びはあるが将来につながるか不安	3
良質な学びがあれば参加したいが現状は見つからない	3
学校での支援が十分なら外部の学びは不要と考える	2
家庭方針に沿った生活重視	1

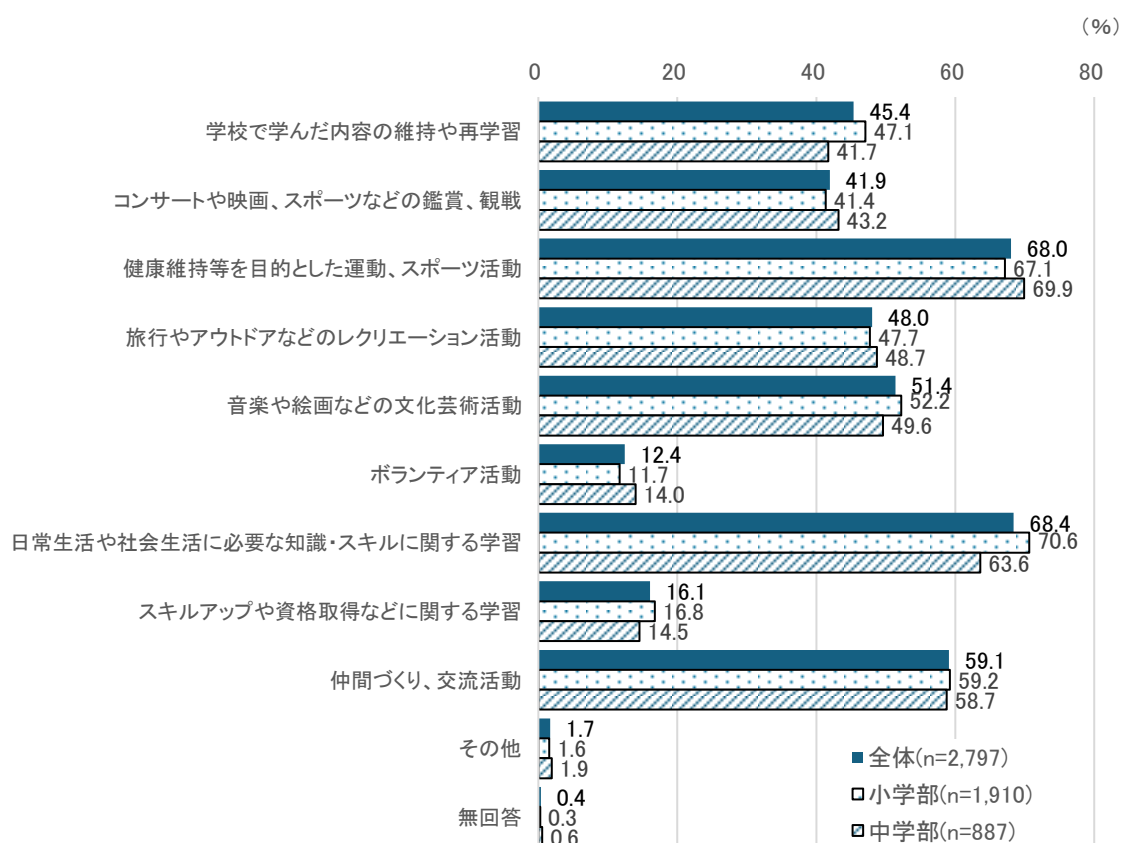
(Q24で「学校外でも積極的に学ばせたい」「学校外でも学ばせたい」を回答した場合)
Q25 お子さんに学校以外で学ばせたい内容を御回答ください(複数回答)

学校以外で学ばせたい内容について全体では、「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が68.4%で最も高く、次いで「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が68.0%、「仲間づくり、交流活動」が59.1%と続いています。

小学部では、「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が70.6%で最も高く、次いで「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が67.1%、「仲間づくり、交流活動」が59.2%と続いています。

中学部では、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が69.9%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が63.6%、「仲間づくり、交流活動」が58.7%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校で学んだ内容の維持や再学習	899	47.1	370	41.7	1,269	45.4
コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	790	41.4	383	43.2	1,173	41.9
健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	1,282	67.1	620	69.9	1,902	68.0
旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	911	47.7	432	48.7	1,343	48.0
音楽や絵画などの文化芸術活動	997	52.2	440	49.6	1,437	51.4
ボランティア活動	223	11.7	124	14.0	347	12.4
日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	1,349	70.6	564	63.6	1,913	68.4
スキルアップや資格取得などに関する学習	320	16.8	129	14.5	449	16.1
仲間づくり、交流活動	1,131	59.2	521	58.7	1,652	59.1
その他	30	1.6	17	1.9	47	1.7
無回答	5	0.3	5	0.6	10	0.4
全体	1,910	100.0	887	100.0	2,797	100.0



■ その他の内訳

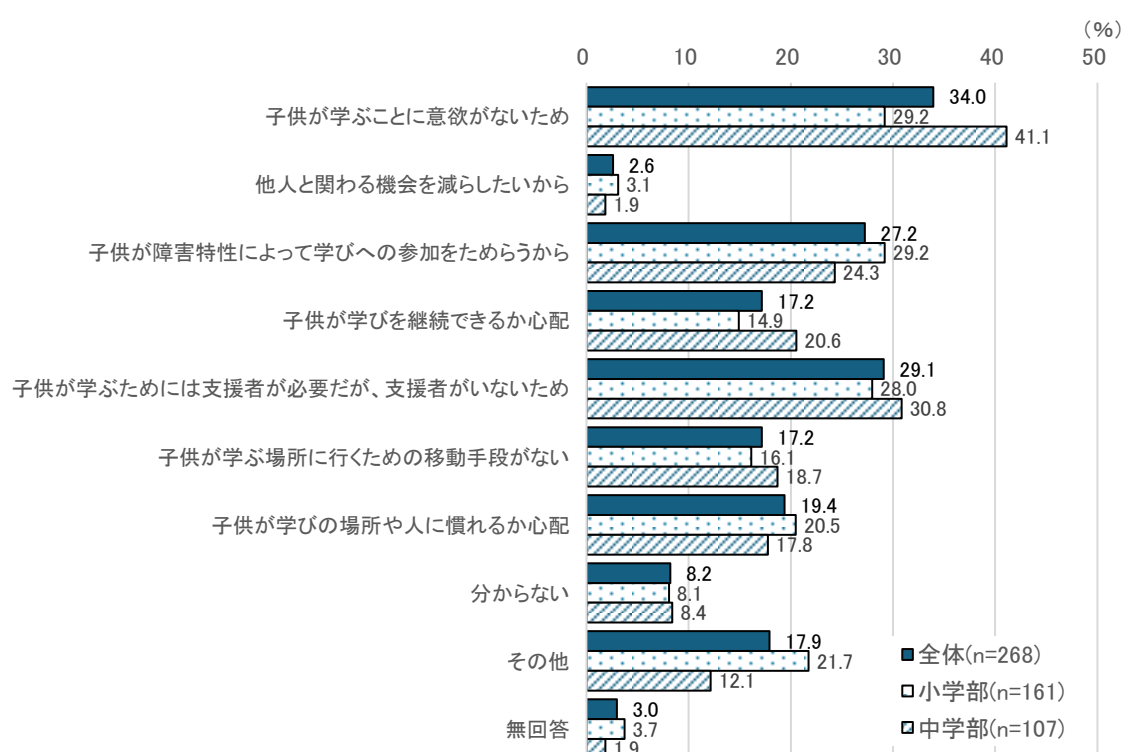
日常生活・社会生活に必要な知識・スキル(自立に向けた学び)	15
他者との関わり・社会性・コミュニケーション能力の向上	12
重度障害児でも安心して参加できる活動・受け入れ環境の拡充を希望	10
生活・職業に役立つ実践的な学び(買い物・金銭管理・料理など)	6
身体活動・運動(体育・水泳・乗馬・OT・リハビリなど)	6
学ぶ機会そのものを増やしてほしい／健常児との機会格差を感じている	5
ICT・IT・プログラミング・e スポーツなどのデジタルスキル	4
専門療育支援	4
学校の学習内容不足(社会・理科など一般常識の学びを希望)	4
文化・芸術・余暇的学び(図書館・読み聞かせ・芸術・体験など)	3
学びを通じた自信・得意分野の発見・自己表現	3
親子での対話・視覚情報を使った学び(家庭内教育)	2
障害理解を広める学び(健常者側への教育・共生意識)	2
記憶力・知的好奇心を活かす個別学習(家庭学習・プリント等)	2
肢体不自由・移動制約により参加困難(物理的なバリア)	2

学びに関心がない理由について全体では、「子供が学ぶことに意欲がないため」が34.0%で最も高く、次いで「子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため」が29.1%、「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」が27.2%と続いています。

小学部では、「子供が学ぶことに意欲がないため」と「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」が29.2%で最も高く、次いで「子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため」が28.0%と続いています。

中学部では、「子供が学ぶことに意欲がないため」が41.1%で最も高く、次いで「子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため」が30.8%、「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」が24.3%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
子供が学ぶことに意欲がないため	47	29.2	44	41.1	91	34.0
他人と関わる機会を減らしたいから	5	3.1	2	1.9	7	2.6
子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから	47	29.2	26	24.3	73	27.2
子供が学びを継続できるか心配	24	14.9	22	20.6	46	17.2
子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため	45	28.0	33	30.8	78	29.1
子供が学ぶ場所に行くための移動手段がない	26	16.1	20	18.7	46	17.2
子供が学びの場所や人に慣れるか心配	33	20.5	19	17.8	52	19.4
分からない	13	8.1	9	8.4	22	8.2
その他	35	21.7	13	12.1	48	17.9
無回答	6	3.7	2	1.9	8	3.0
全体	161	100.0	107	100.0	268	100.0



■ その他の内訳

学校・デイで十分／それ以上は負担になる	11
本人の障害特性上、学びが難しい・理解困難	11
家庭の事情・親の体力的余裕がない	8
自由時間を大切にしたい／リラックスさせたい	6
まだ年齢的に早い／その段階ではない	6
移動・環境変化が大変／拒否感が強い	5
学びの必要性を感じない／価値を感じない	5
学びより遊び・体を動かす・コミュニケーションを優先	4
家庭で対応できる／家庭内で十分	3
危険行動・強度行動障害などで困難	3
経済的・地理的理由(施設がない・高額)	2
学びの意義が不明／「学び」の定義が合わない	2
定着のために場を増やさない方がよい	1
福祉園在籍のため追加が不要	1

V 学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びのニーズ

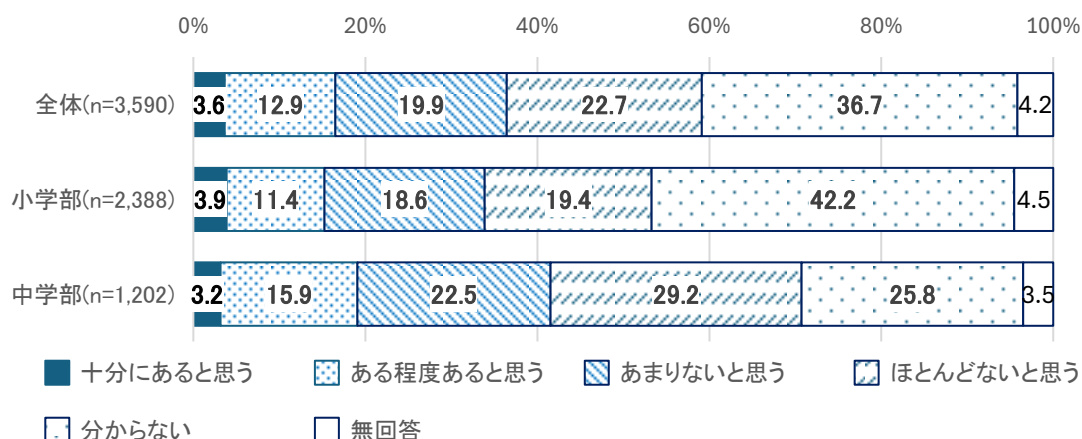
5-1 Q27 お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会の状況を御回答ください

卒業後の学びの機会の状況について全体では、「十分にあると思う」が3.6%、「ある程度あると思う」が12.9%と、16.5%が『あると思う』と回答しました。

小学部では、「十分にあると思う」が3.9%、「ある程度あると思う」が11.4%と、15.3%が『あると思う』と回答しました。

中学部では、「十分にあると思う」が3.2%、「ある程度あると思う」が15.9%と、19.1%が『あると思う』と回答しました

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分にあると思う	92	3.9	38	3.2	130	3.6
ある程度あると思う	272	11.4	191	15.9	463	12.9
あまりないと思う	445	18.6	270	22.5	715	19.9
ほとんどないと思う	463	19.4	351	29.2	814	22.7
分からない	1,008	42.2	310	25.8	1,318	36.7
無回答	108	4.5	42	3.5	150	4.2
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0

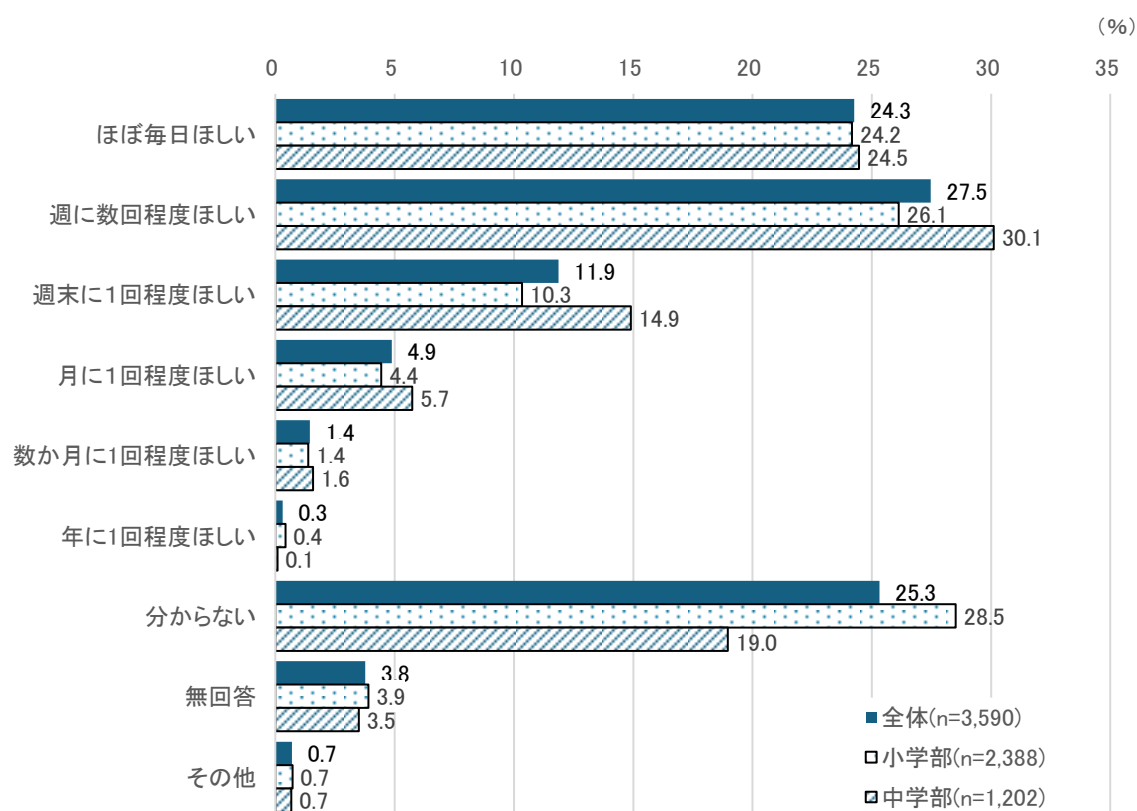


卒業後の学びの機会はどの程度あると良いかについて全体では、「週に数回程度ほしい」が27.5%で最も高く、次いで「分からない」が25.3%、「ほぼ毎日ほしい」が24.3%と続いています。

小学部では、「分からない」が28.5%で最も高く、次いで「週に数回程度ほしい」が26.1%、「ほぼ毎日ほしい」が24.2%と続いています。

中学部では、「週に数回程度ほしい」が30.1%で最も高く、次いで「ほぼ毎日ほしい」が24.5%、「分からない」が19.0%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ほぼ毎日ほしい	577	24.2	294	24.5	871	24.3
週に数回程度ほしい	624	26.1	362	30.1	986	27.5
週末に1回程度ほしい	247	10.3	179	14.9	426	11.9
月に1回程度ほしい	106	4.4	69	5.7	175	4.9
数か月に1回程度ほしい	33	1.4	19	1.6	52	1.4
年に1回程度ほしい	10	0.4	1	0.1	11	0.3
分からない	681	28.5	228	19.0	909	25.3
無回答	93	3.9	42	3.5	135	3.8
その他	17	0.7	8	0.7	25	0.7
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

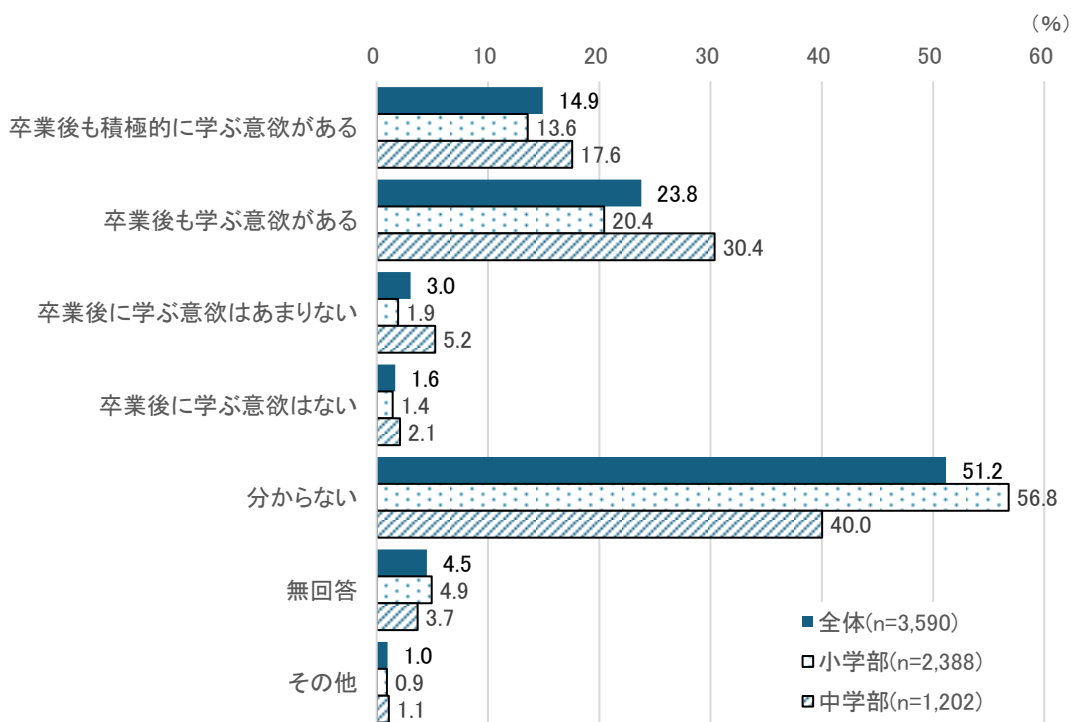
学びの機会が「ない」「わからない」	9
本人の興味・希望に応じて(内容・頻度を本人主導に)	5
平日週 5 日／毎日など継続的に学びの機会を希望	4
生活介護より専門的な療育・学びの場を希望	2
余暇・楽しみ・暮らしに繋がる学びを重視	2
頻度: 月 2 回・週 1 回程度を希望	2
送迎支援・居場所確保(共働き家庭の課題)	2
学びの定義や内容が曖昧で理解できない	2
強度行動障害児への理解や場の不足を懸念	1
学校と同様の学び・継続性を求める	1
特に必要ない・なくてよい	1
小学 1 年生など、まだ時期的に判断できない	1

卒業後の学びへの意欲について全体では、「分からない」が51.2%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が23.8%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が14.9%と続いています。

小学部では、「分からない」が56.8%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が20.4%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が13.6%と続いています。

中学部では、「分からない」が40.0%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が30.4%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が17.6%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
卒業後も積極的に学ぶ意欲がある	324	13.6	211	17.6	535	14.9
卒業後も学ぶ意欲がある	488	20.4	365	30.4	853	23.8
卒業後に学ぶ意欲はあまりない	46	1.9	63	5.2	109	3.0
卒業後に学ぶ意欲はない	34	1.4	25	2.1	59	1.6
分からない	1,356	56.8	481	40.0	1,837	51.2
無回答	118	4.9	44	3.7	162	4.5
その他	22	0.9	13	1.1	35	1.0
全体	2,388	100.0	1,202	100.0	3,590	100.0



■ その他の内訳

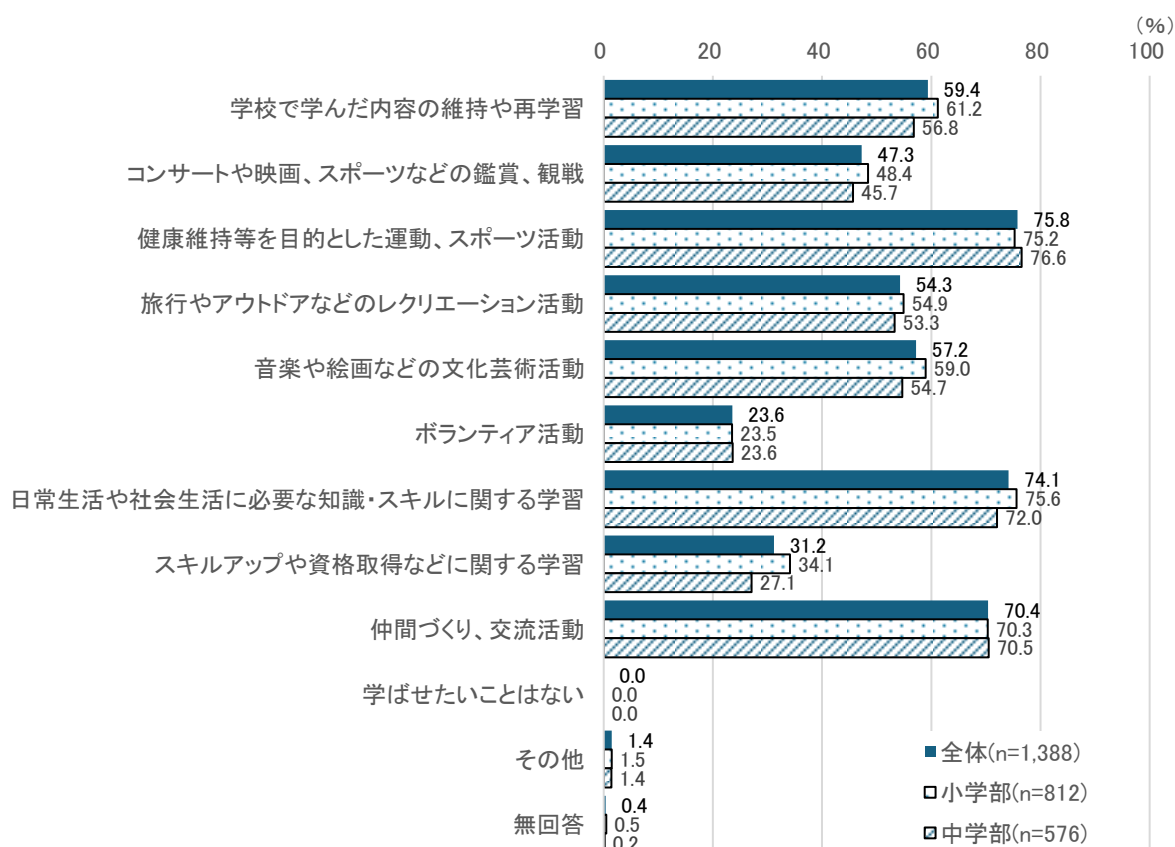
親は学ばせたい・意欲があるが、本人の意向や意欲は不明	12
本人の学ぶ意欲はまだない・理解していない・その段階にない	9
親は学びの必要性を感じており、本人の意思に関わらず学びを希望	6
本人の意思が読み取れない・分からない(重度・知的障害など)	6
環境を整えば学ぶ姿勢・意欲が出る可能性あり	4
まだ年齢が低く、判断できない段階	4
ルーティン化・継続訓練として学びが必要(意欲とは別の課題)	3
働く意欲・就労志向を持っている	2
学びによって生活安定・情緒安定につながると考える	2
親としては本人の得意を伸ばしたい・支援したい気持ちがある	2

卒業後に学ばせたい内容について全体では、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が75.8%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が74.1%、「仲間づくり、交流活動」が70.4%と続いています。

小学部では、「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が75.6%で最も高く、次いで「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が75.2%、「仲間づくり、交流活動」が70.3%と続いています。

中学部では、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が76.6%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が72.0%、「仲間づくり、交流活動」が70.5%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校で学んだ内容の維持や再学習	497	61.2	327	56.8	824	59.4
コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	393	48.4	263	45.7	656	47.3
健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	611	75.2	441	76.6	1,052	75.8
旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	446	54.9	307	53.3	753	54.3
音楽や絵画などの文化芸術活動	479	59.0	315	54.7	794	57.2
ボランティア活動	191	23.5	136	23.6	327	23.6
日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	614	75.6	415	72.0	1,029	74.1
スキルアップや資格取得などに関する学習	277	34.1	156	27.1	433	31.2
仲間づくり、交流活動	571	70.3	406	70.5	977	70.4
学ばせたいことはない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	12	1.5	8	1.4	20	1.4
無回答	4	0.5	1	0.2	5	0.4
全体	812	100.0	576	100.0	1,388	100.0



■ その他の内訳

本人の興味・希望に沿った学びをさせたい	4
仕事・就労につながるスキル(IT、技術訓練、対応力など)	4
進学・高度な学び(大学・専門分野・国家資格)	4
日常生活スキル(お金、買い物、語学、料理など)	3
自然・社会活動・社会体験(工事見学、自然体験など)	3
余暇・ライフスキル(気持ちの切替、楽しく過ごす場)	2
ABA・療育など専門的支援を受けたい	1
学校教育の補完・質の高い学びが必要	1

(Q29 で「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」「卒業後も学ぶ意欲がある」を回答、かつ Q30 で「学びたいことはない」以外を回答した場合)

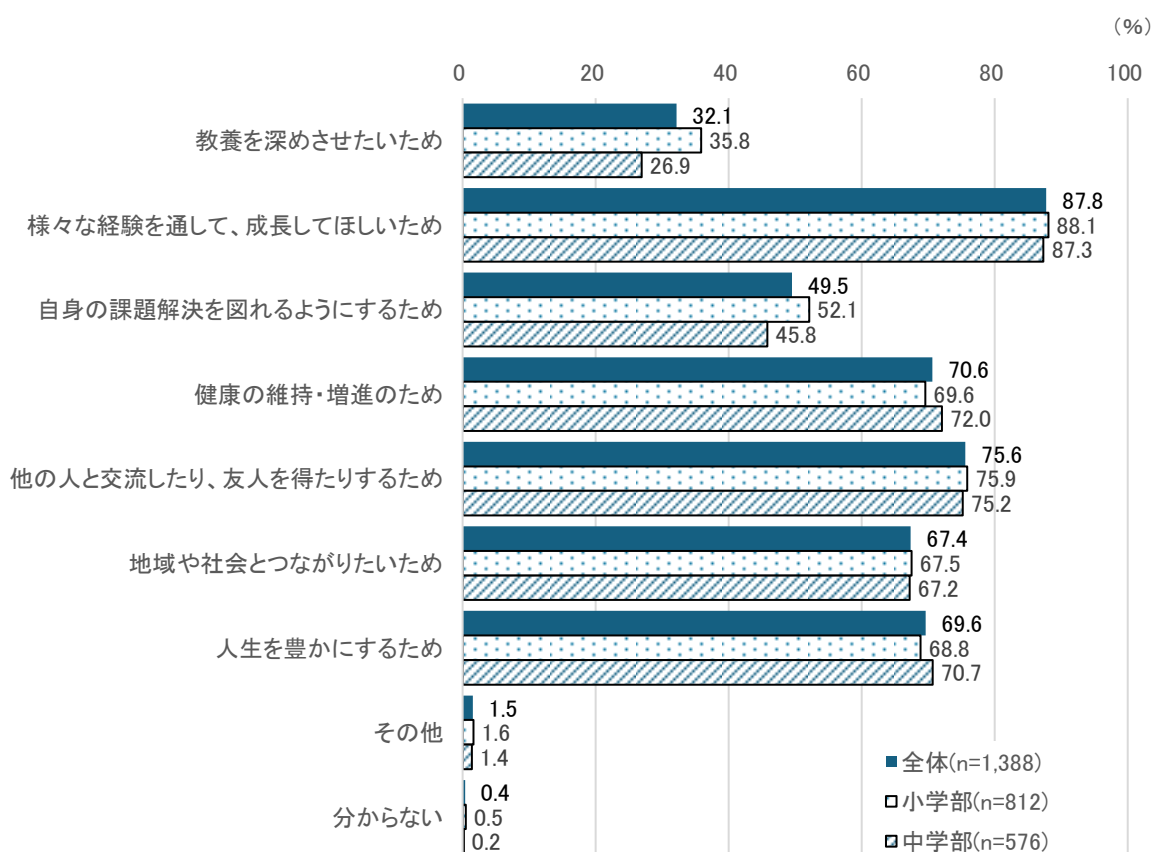
Q31 お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学びたい理由を御回答ください（複数回答）

卒業後に学びたい理由について全体では、「様々な経験を通して、成長するため」が87.8%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が75.6%、「健康の維持・増進のため」が70.6%と続いています。

小学部では、「様々な経験を通して、成長するため」が88.1%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が75.9%、「健康の維持・増進のため」が69.6%と続いています。

中学部では、「様々な経験を通して、成長するため」が87.3%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が75.2%、「健康の維持・増進のため」が72.0%と続いています。

カテゴリー	小学部		中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
教養を深めさせたいため	291	35.8	155	26.9	446	32.1
様々な経験を通して、成長してほしいため	715	88.1	503	87.3	1,218	87.8
自身の課題解決を図れるようにするため	423	52.1	264	45.8	687	49.5
健康の維持・増進のため	565	69.6	415	72.0	980	70.6
他の人と交流したり、友人を得たりするため	616	75.9	433	75.2	1,049	75.6
地域や社会とつながりたいため	548	67.5	387	67.2	935	67.4
人生を豊かにするため	559	68.8	407	70.7	966	69.6
その他	13	1.6	8	1.4	21	1.5
分からない	4	0.5	1	0.2	5	0.4
全体	812	100.0	576	100.0	1,388	100.0



■ その他の内訳

自立に必要な生活力の獲得(料理・支払い・日常生活・生きる力)	7
「親亡き後」への備え(1人で生きる力・つながり・支援者の確保)	6
保護者の就労・生活維持のための預かり先・安全な居場所の必要性	5
就労に向けたスキル習得(課題スキル、賃金確保、訓練)	3
人生の楽しみ・趣味・余暇の充実	3
コミュニケーション能力・人格形成(愛される・協調性)	2
自分らしいスキル・強みの習得(オリジナルな知識・技能)	1

III. 資料

特別支援学校卒業後の進路に関する調査項目

質問		複数回答	回答				
1	在籍している学校名を御回答ください。	-	小・中・高設置校を選択				
2	在籍している教育部署を御回答ください。	-	視覚障害教育部署	聴覚障害教育部署	肢体不自由教育部署	知的障害教育部署	病弱教育部署
3	在籍している学部を御回答ください。	-	小学部	中学部			
4	(質問3で小学部選択者) お子さんの現在の学年を御回答ください。	-	1年	2年	3年	4年	5年
4	(質問3で中学部選択者) お子さんの現在の学年を御回答ください。	-	1年	2年	3年		
5	お子さんの性別を御回答ください。	-	男	女	回答したくない	その他()	無回答
6	居住地(区市町村名)を御回答ください。	-	区市町村を選択				
7	お子さんの愛の手帳の区分を御回答ください。	-	1度	2度	3度	4度	持っていない
8	お子さんの身体障害者手帳の区分を御回答ください。	-	1級	2級	3級	4級	5級
9	お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分を御回答ください。	-	1級	2級	3級	持っていない	
10	お子さんの主な意思の伝達方法を御回答ください。	-	会話でのやりとり	文字や文章を書いて伝える	家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう	その他()	無回答
11	お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力を御回答ください。	-	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他()
12	お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力を御回答ください。	-	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他()
13	お子さんの買物やお小遣いの管理などの金銭の管理能力を御回答ください。	-	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他()
14	お子さんの中学部卒業後に希望する進路先を御回答ください。	-	特別支援学校高等部への進学 福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用 【生活介護事業所や就労継続、就労移行等についてはこちらを選択してください。】	高等学校への進学 福祉型大学「カレッジ」【自主訓練(生活訓練)と就労移行支援多機能型事業所についてはこちらを選択してください。】	専修学校等への進学 その他()	障害者職業能力開発校等での訓練 まだ検討していない	企業への就労
15	(質問14で特別支援学校高等部、高等学校、専修学校等への進学選択者) お子さんの高等学校段階卒業後に希望する進路を御回答ください。	-	大学・短期大学への進学 福祉型大学「カレッジ」【自主訓練(生活訓練)と就労移行支援多機能型事業所についてはこちらを選択してください。】	専修学校・専門学校への進学 その他()	障害者職業能力開発校等での訓練 まだ検討していない	企業への就労	福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用 【生活介護事業所や就労継続、就労移行等についてはこちらを選択してください。】
16	(質問14で障害者職業能力開発校・福祉型大学を選んだ場合、または質問15で大学・短期大学・専修学校・専門学校・能力開発校・福祉型大学「カレッジ」選択者) その理由を御回答ください。(複数選択可)	○	知識や教養を高めさせたいから その他()	子供が働くのはまだ早いと思うから 無回答	家族に勧められているから 無回答	学校の先生に勧められているから	きょうだいや身の回りの人が進学しているから
17	(質問14若しくは質問15で企業就労、福祉サービス利用選択者) その理由を御回答ください。(複数選択可)	○	働いて給料をもらってほしいから きょうだいや身の回りの人が働いているから その他()	家族を安心させてほしいから その他()	自立した生活をしてほしいから 無回答	家族に勧められているから	学校の先生に勧められているから
18	進路について相談できる人を御回答ください。(複数選択可)	○	家族 無回答	友人・知人	学校の先生	相談相手はいない	その他()
19	進路に関する情報は、学校から十分に提供されていますか。	-	十分に提供されている その他()	提供されている 無回答	どちらとも言えない	あまり提供されていない	提供されていない
20	放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法を御回答ください。(複数選択可)	○	テレビ・ラジオ 福祉機関や公民館等からの案内	新聞・雑誌・本 その他()	インターネット(ホームページ・SNSなど) 特になし	電話での問合せ(携帯電話・スマートフォンなど) 無回答	身近な人への相談(家族、友人、支援者など)
21	放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手や、活動団体とコミュニケーションをとる上で困りそうなことを御回答ください。(複数選択可)	○	お子さんにとって公共施設や交通機関の案内等が分かりにくいこと お子さんにとって情報入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと	お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいかわからないこと その他()	お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと 特に困らないと思う	お子さんにとってインターネットの使い方がよく分からないこと(パソコン、スマートフォン) 無回答	お子さんにとってメールの使い方がよく分からないこと
22	お子さんの現在の学校以外の学びの機会を御回答ください。	-	十分にある	ある程度ある	あまりない	ほとんどない	分からない
23	お子さんの現在の学校以外の学びの機会の頻度を御回答ください。	-	ほぼ毎日 年に1回程度	週に数回程度 分からない	週末に1回程度 その他()	月に数回程度 無回答	数か月に1回程度
24	お子さんの学校以外の学びに関する要望を御回答ください。	-	学校外でも積極的に学ばせたい その他()	学校外でも学ばせたい 無回答	学校外での学びについてあまり関心がない	学校外での学びについて関心がない	分からない
25	(24で学校外でも積極的に学ばせたい・学校外でも学ばせたいとの回答選択者) お子さんに学校以外で学ばせたい内容を御回答ください。(複数選択可) ※必須	○	学校で学んだ内容の維持や再学習 ボランティア活動 無回答	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦 日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動 スキルアップや資格取得などに関する学習	旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動 仲間づくり、交流活動	音楽や絵画などの文化芸術活動 その他()
26	(24で学校外での学びについてあまり関心がない・学校外での学びについて関心がないとの回答選択者) 学びに関心がない理由を御回答ください。(複数選択可)	○	子供が学ぶことに意欲がないため 子供が学ぶ場所に行くための移動手段がない	他人と関わる機会を減らしたいから 子供が学びの場所や人に慣れるか心配	子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから 分からない	子供が学びを継続できるか心配 その他()	子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため 無回答
27	お子さんの学校【高等部(高等学校等を含む)】卒業後の学びの機会の状況を御回答ください。	-	十分にあると思う 無回答	ある程度あると思う	あまりないと思う	ほとんどないと思う	分からない
28	お子さんの学校【高等部(高等学校等を含む)】卒業後の学びの機会はどの程度あると良いですか。	-	ほぼ毎日ほしい 年に1回程度ほしい	週に数回程度ほしい 分からない	週末に1回程度ほしい その他()	月に1回程度ほしい 無回答	数か月に1回程度ほしい
29	お子さんの学校【高等部(高等学校等を含む)】卒業後の学びへの意欲を御回答ください。	-	卒業後も積極的に学ぶ意欲がある その他()	卒業後も学ぶ意欲がある 無回答	卒業後に学ぶ意欲はあまりない	卒業後に学ぶ意欲はない	分からない
30	(29で卒業後も積極的に学ぶ意欲がある・卒業後も学ぶ意欲があるとの回答選択者) お子さんの学校【高等部(高等学校等を含む)】卒業後に学ばせたい内容を御回答ください。(複数選択可)	○	学校で学んだ内容の維持や再学習 ボランティア活動 その他()	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦 日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習 無回答	健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動 スキルアップや資格取得などに関する学習	旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動 仲間づくり、交流活動	音楽や絵画などの文化芸術活動 学ばせたいことはない
31	(29で卒業後も積極的に学ぶ意欲がある・卒業後も学ぶ意欲がある、かつ30で学ばせたいことはない以外を回答した選択者) お子さんの学校【高等部(高等学校等を含む)】卒業後に学ばせたい理由を御回答ください。(複数選択可)	○	教養を深めさせたいため 地域や社会とつながりたいため	様々な経験を通して、成長してほしいため 人生を豊かにするため	自身の課題解決を図れるようにするため 分からない	健康の維持・増進のため その他()	他の人と交流したり、友人を得たりするため